

「あまがさきし地域福祉計画」の 評価・推進にかかる意識調査 結果報告書(暫定版:抜粋)

【取扱注意事項】

現在、調査会社との間で、報告書に記載するクロス集計内容等の調整をおこなっています。

また、調査会社から送付された報告書(案)はページ数150ページを超える(サンプル数が少なく調査結果として意味を持たない結果も含む)ことから、事務局において内容を抜粋しております。

部会までに報告書(案)が完成していれば、改めて配付する予定です。

平成28年7月13日

1. 調査実施の概要

調査目的

尼崎市では、平成17年3月に「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域福祉社会の実現」を基本理念として地域福祉計画を策定し、現在、平成28年度までを計画期間とした第2期の計画推進に取り組んでいる。本調査は、平成29年度からの第3期地域福祉計画策定に向けて、地域福祉の推進の基礎資料とするために実施した。

調査の方法

調査手法 郵送による発送・回収

調査対象者 市民
住民基本台帳に記載されている市内在住の満20歳以上の市民の中から、2,000人を無作為に抽出した。

民生児童委員
民生・児童委員831名を対象とした。

福祉事業者
NPOを含む市内の福祉事業者の中から200社を抽出した。

調査実施時期 発送日：平成28年5月27日（金）
投函締切日：平成28年6月17日（金）
6月22日着分までを集計対象とした。

回収状況

対象者		発送数	返送数	有効発送数	回収数	有効回収率
1. 市民	中央地区	232	9	223	93	41.7%
	小田地区	328	4	324	126	38.9%
	大庄地区	235	3	232	88	37.9%
	立花地区	471	5	466	163	35.0%
	武庫地区	329	5	324	157	48.5%
	園田地区	405	8	397	174	43.8%
	住所無記入	-	-	-	39	
小計	2,000	34	1,966	840	42.7%	
2. 民生児童委員		831	2	829	641	77.3%
3. 福祉事業者	介護関係	132	-	132		
	障がい者関係	50	1	49		
	児童関係	18	-	18		
小計	200	1	199	125	62.8%	
福祉事業者のうちNPO		13	-	13		
合計		3,031	37	2,994	1,606	53.6%

2. 市民 調査結果

【属性別のクロス集計分析の注意点】

属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生する。

この誤差を考慮して、30サンプル未満の属性の回答比率については参考値として扱う。

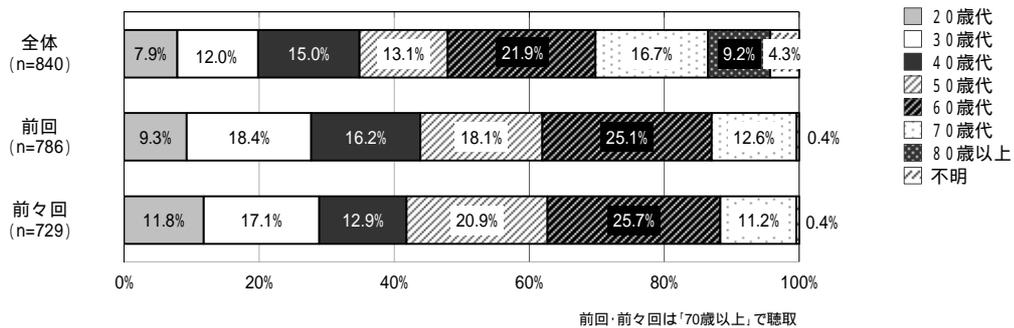
(2) 年齢

問2. あなたの年齢をおうかがいします。(SA)

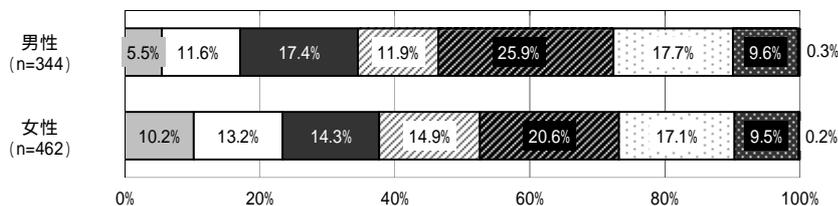
年齢分布をみると、「60歳代」が2割強で最も多く、「60歳以上」で半数近くを占めている。
 前回、前々回に比べて、「60歳以上」の比率が10ポイント以上高い。

- 年齢をみると、「60歳代」が21.9%で最も多く、次いで、「70歳代」が16.7%、「40歳代」が15.0%と続いている。「60歳以上」で47.8%と半数近くを占めている。
- 前回、前々回は「60歳以上」が36~37%だったので、今回、年配層の比率が高くなっている。
- 性別でみると、男性の方が「60歳以上」の比率が6.0ポイント高い。

性別は、「女性」が55.0%を占めている。前回よりも女性比率がやや高くなっている。



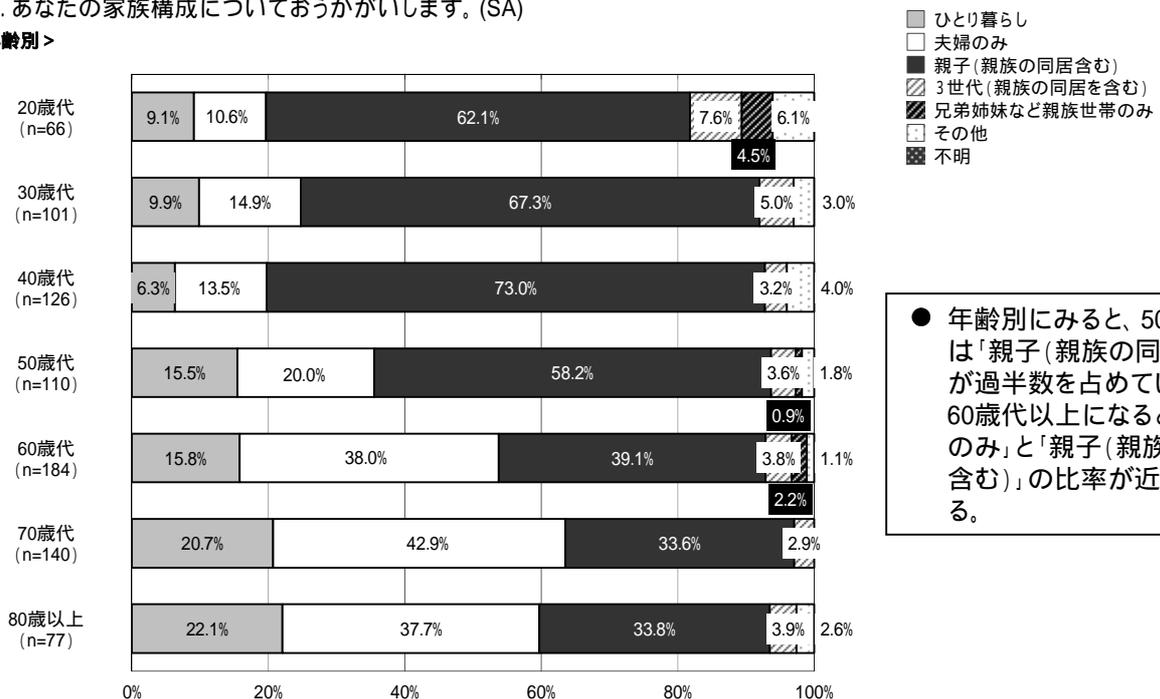
<性別>



(3) 家族構成

問3. あなたの家族構成についておうかがいします。(SA)

<年齢別>



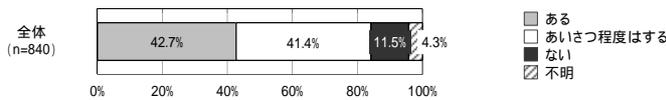
● 年齢別にみると、50歳代までは「親子(親族の同居含む)」が過半数を占めているが、60歳代以上になると、「夫婦のみ」と「親子(親族の同居含む)」の比率が近くなっている。

(1) 地域住民との交流の有無

問6. あなたは日頃から身近な地域の人との交流がありますか。(SA)

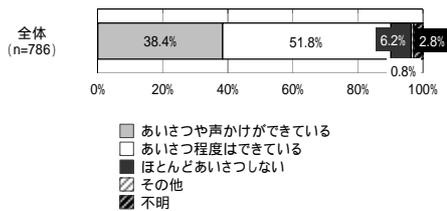
地域住民との交流は「ある」が4割強。女性や年配層、居住年数の長い層ほど、交流がみられる。

- 地域住民との交流の有無は、「ある」が42.7%、「あいさつ程度はする」が41.4%となっている。
- 前回とは聴取項目が異なるが、「ほとんどあいさつしない」と今回の「ない」を比較すると、6.2% 11.5%と増加している。
- 性別にみると、女性の方が「ある」が10.2ポイント高い。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど「ある」が増加する傾向で、居住年数とも相関関係がみられる。
- 家族構成別では、「ひとり暮らし」で「ない」が20.7%と高い。

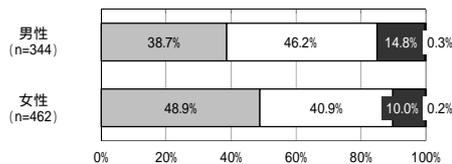


<参考: 前回>

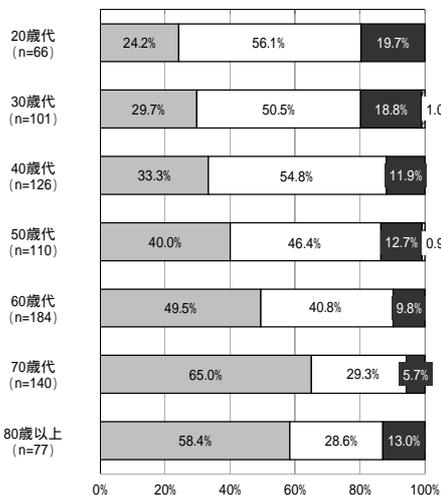
問7. あなたは日頃近所の人などにあいさつや声かけができてきていると思いますか。(SA)



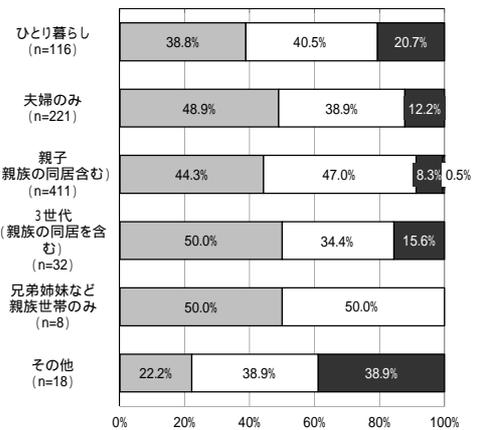
<性別>



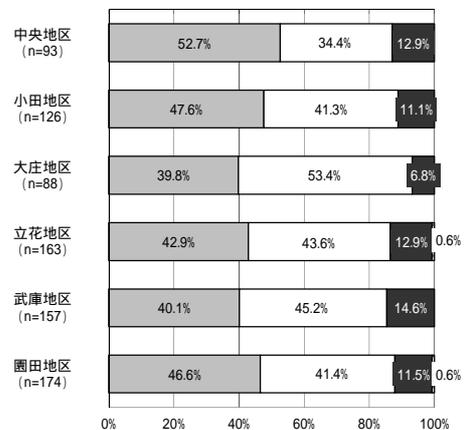
<年齢別>



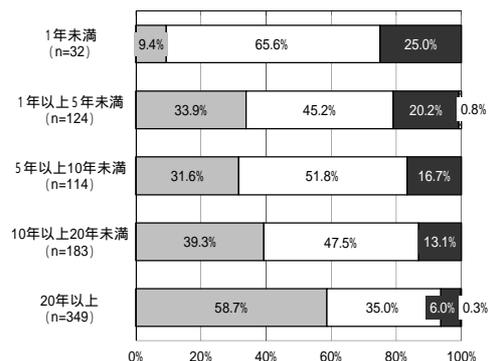
<家族構成別>



<地区別>



<居住年数別>

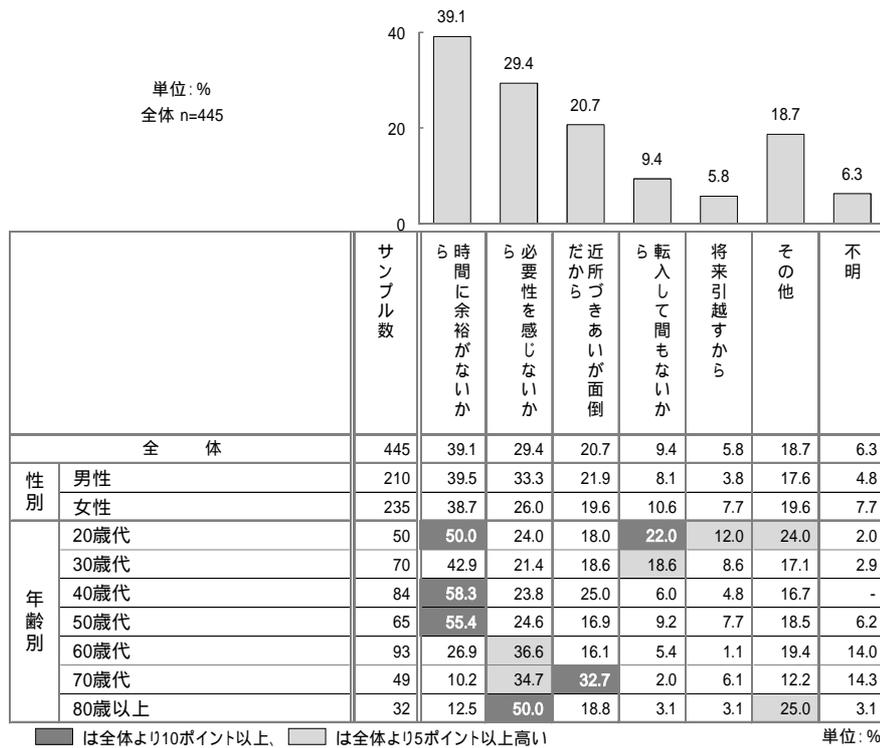


(3) 地域住民との交流がない理由

問8. 身近な地域の人と交流がない主な理由は何ですか。(MA) 【問6で「2.あいさつ程度はする」「3.ない」とお答えの方へ】

地域住民との交流がない理由は、「時間に余裕がない」が約4割、「必要性を感じない」が約3割。若年層は「時間に余裕がない」、年配層は「必要性を感じない」が高い傾向である。

- 地域住民との交流がない理由は、「時間に余裕がないから」が39.1%で最も高く、次いで「必要性を感じないから」(29.4%)、「近所づきあいが面倒だから」(20.7%)となっている。
- 性別にみると、男性は「必要性を感じないから」が女性より7.3ポイント高い。
- 年齢別にみると、若年層ほど「時間に余裕がないから」、年配層ほど「必要性を感じないから」が高くなる傾向である。

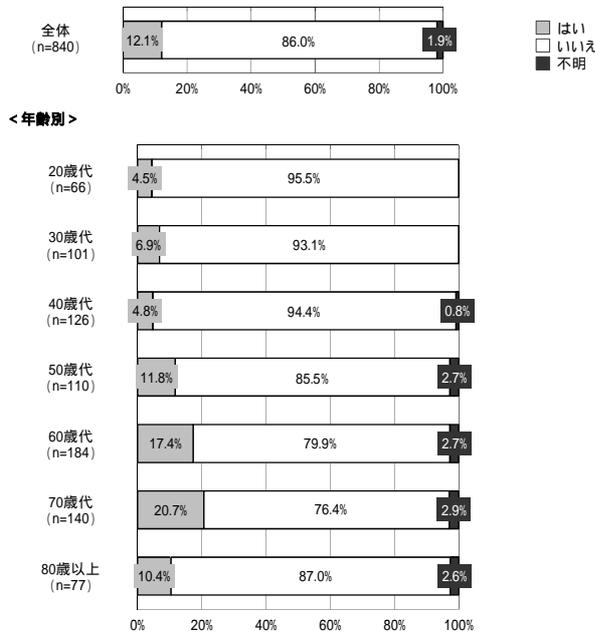


(1) ボランティア活動など地域の支え合い活動への参加

問9. あなたは、ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加していますか。 職場、学校等で取り組んでいる地域でのボランティア活動を含む(SA)

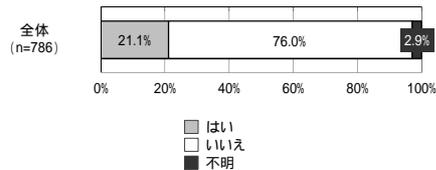
地域の支え合い活動に参加しているのは12.1%。60～70歳代での活動率が約2割と高い。

- 地域の支え合い活動に参加している人は全体の12.1%である。
- 参考値であるが、前回の「地域で何か活動をしている」は21.1%であった。
- 年齢別では60～70歳代で活動率が約2割と高い。



<参考:前回>

問16. あなたは、日頃地域で何か活動をされていますか。(SA)



2-3. ボランティア活動など地域の支え合い活動について

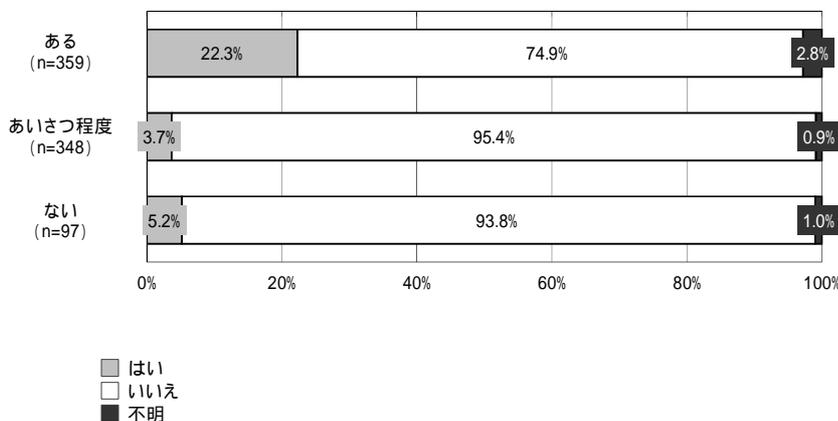
(1) 【地域住民との交流有無別】ボランティア活動など地域の支え合い活動への参加

問9. あなたは、ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加していますか。 職場、学校等で取り組んでいる地域でのボランティア活動を含む(SA)

地域の支え合い活動への参加率は、地域の人との交流有無と強い相関があり、交流のある人の活動率が非常に高くなっている。

- 地域の支え合い活動への参加有無を、地域の人との交流有無別にみると、交流のある人の活動率が22.3%と特に高い。あいさつ程度の方は3.7%、ない人は5.2%となっている。

<地域の人との交流有無別>



<問9:具体的な活動内容>

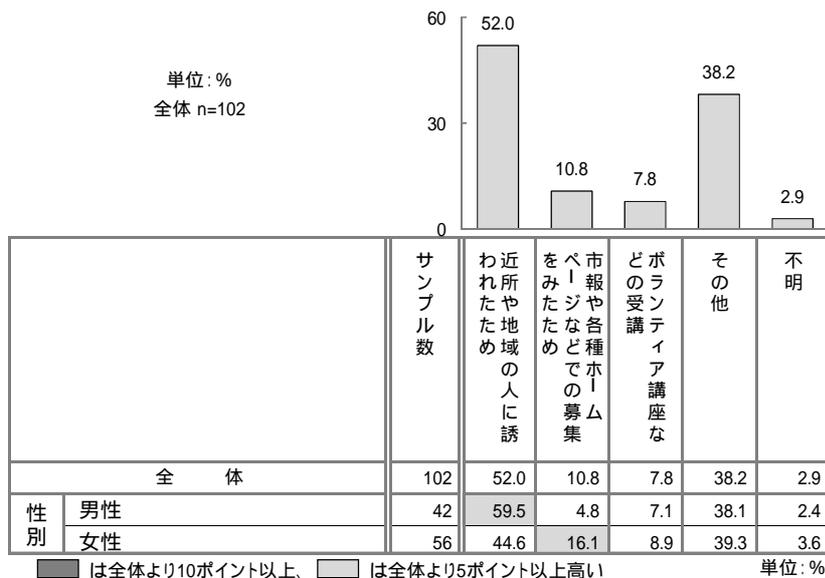
内容	サンプル数 (102件)
・ 清掃活動	21
・ 子どもに関する活動	13
・ 町会活動	10
・ 自治会(町会)役員	6
・ 見守り活動(子ども)	4
・ 体操・スポーツ活動	4
・ 高齢者施設訪問	3
・ 資源回収	3
・ 老人会	3
・ 見守り活動(高齢者)	2
・ 声かけ	2
・ 見守り活動	2
・ 祭	2
・ その他	22
・ 無回答	27

(2) 参加のきっかけ

問10. あなたが、ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加したきっかけは何ですか。(MA) 【問9で「1.はい」とお答えの方へ】

地域の支え合い活動に参加したきっかけは、「近所や地域の人に誘われたため」が半数強で非常に高い。特に男性の方が、誘われたことがきっかけとなっているケースが多い。

- 地域の支え合い活動に参加したきっかけは、「近所や地域の人に誘われたため」が52.0%で圧倒的に高い。「市報や各種ホームページなどでの募集をみたため」は10.8%、「ボランティア講座などの受講」は7.8%であった。
- 性別にみると、男性は「誘われた」、女性は「募集をみた」が相対的に高くなっている。

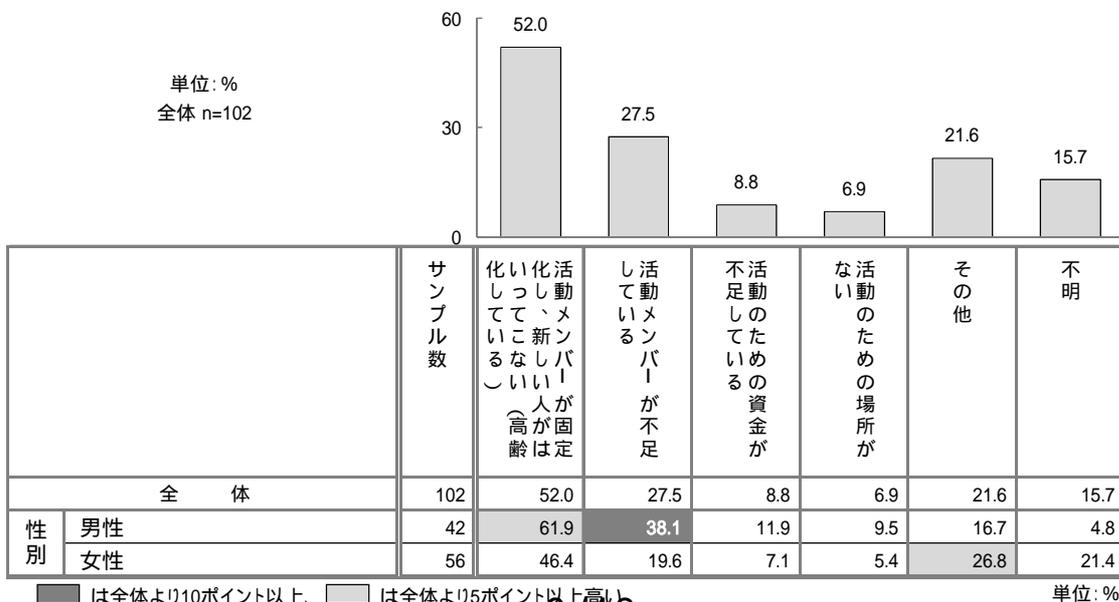


(3) ボランティア活動の困り事

問11. あなたがボランティア活動をする中で、困っていることはありますか。(MA) 【問9で「1.はい」とお答えの方へ】

ボランティア活動の困り事は、「活動メンバーの固定化」が約5割、「活動メンバーの不足」が約3割である。いずれも男性の方が問題だと感じている人の割合が高い。

- ボランティア活動をする中で困り事は、「活動メンバーが固定化し、新しい人がはいてこない(高齢化している)」が52.0%、「活動メンバーが不足している」が27.5%となっている。
- 性別にみると、いずれも男性の方がスコアが高い。

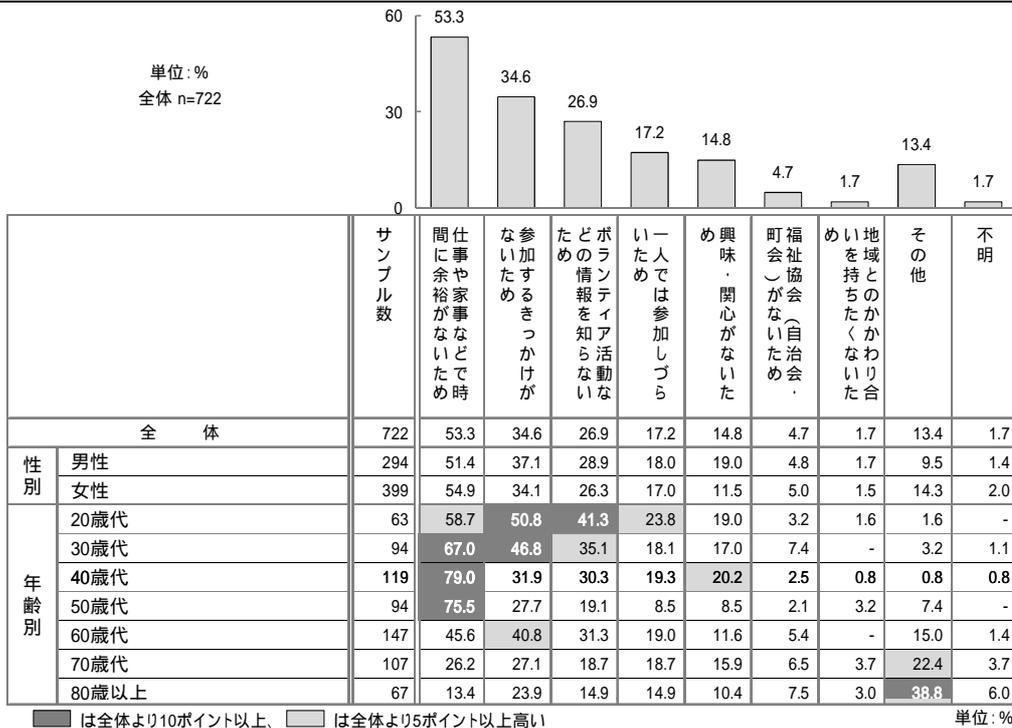


(4) 参加しない理由

問12. ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加していない理由は何ですか。(MA) 【問9で「2.いいえ」とお答えの方へ】

地域の支え合い活動に参加しない理由は、「時間に余裕がない」が半数強で最も高く、特に30～50歳代で多い。

- 地域の支え合い活動に参加しない理由は、「仕事や家事などで時間に余裕がないため」(53.3%)、「参加するきっかけがないため」(34.6%)、「ボランティア活動などの情報を知らないため」(26.9%)の順に上位となっている。
- 性別での差はあまりみられない。
- 年齢別にみると、30～50歳代で「仕事や家事などで時間に余裕がないため」が約7～8割と高く、また、30歳代以下では「参加するきっかけがないため」「ボランティア活動などの情報を知らないため」も高くなっている。

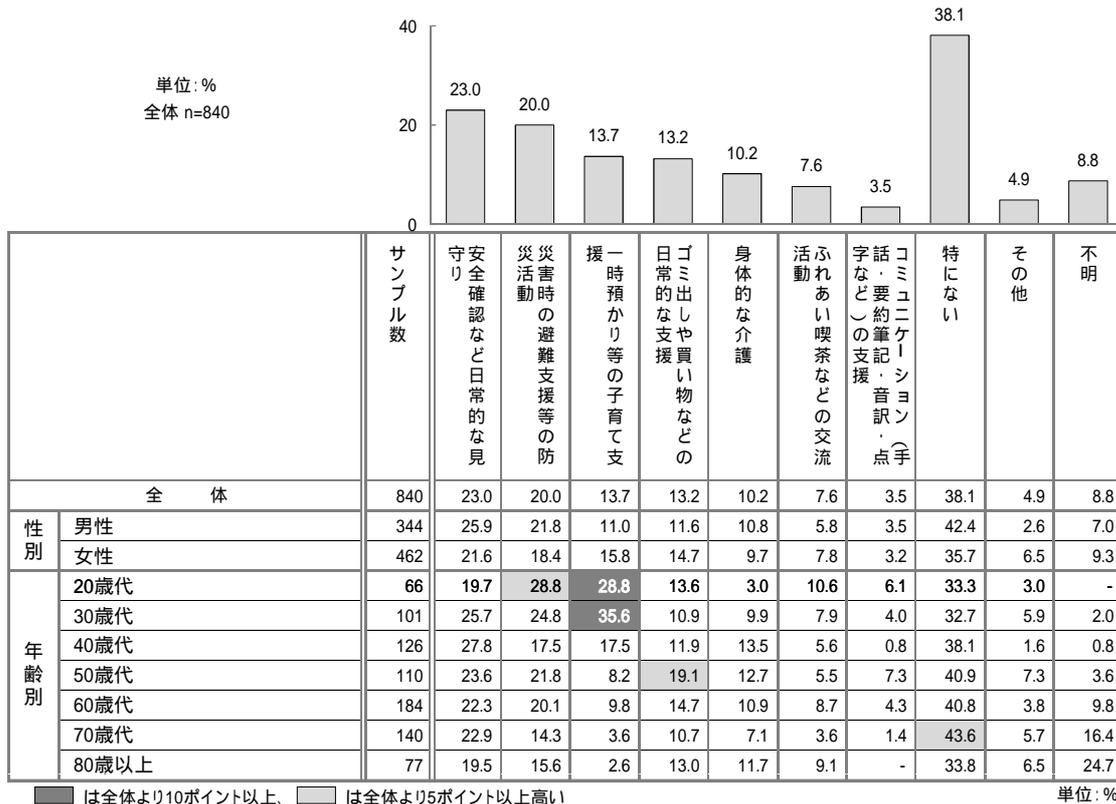


(5) 必要と感じるボランティア活動

問13. あなたやあなたの身近な人、あるいは地域の人が困っていて必要と感じているボランティア活動はありますか。(MA)

必要と感じるボランティア活動は、「特にない」を除くと、「安全確認など日常적인見守り」がトップ。特に、3世代同居層で高くなっている。

- 必要と感じるボランティア活動は、「特にない」が38.1%で最多数であるが、活動内容では「安全確認など日常적인見守り」が23.0%でトップ。以下、「災害時の避難支援等の防災活動」(20.0%)、「一時預かり等の子育て支援」(13.7%)、「ゴミ出しや買い物などの日常적인支援」(13.2%)と続いている。
- 年齢別にみると、20～30歳代で「一時預かり等の子育て支援」が3割前後と高い。

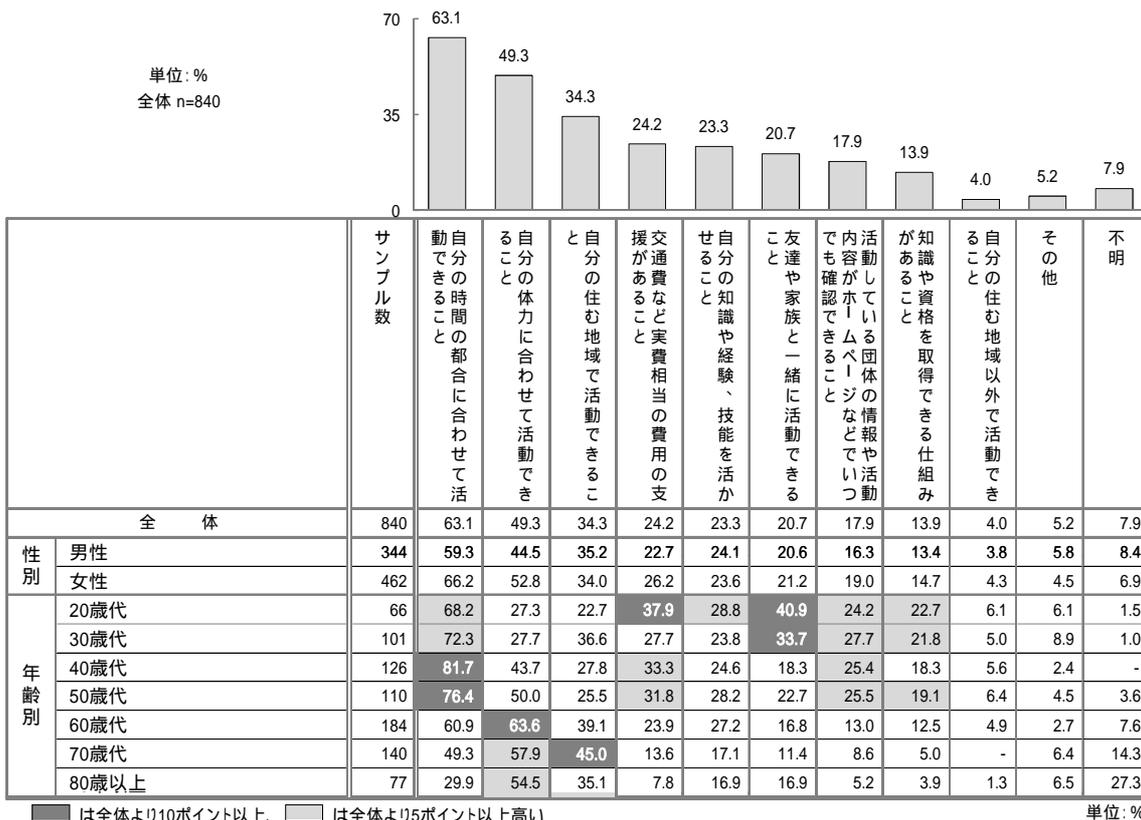


(6) ボランティア活動に必要な条件や仕組み

問14. 様々な方が、ボランティア活動など地域の支え合い活動に積極的に参加するためには、どういった条件や仕組みが必要だと思いますか。(MA)

ボランティア活動に必要だと思う条件や仕組みは、「自分の時間の都合に合わせて活動できること」が6割強で最も高く、特に女性や40～50歳代で高い。

- ボランティア活動に必要だと思う条件や仕組みは、「自分の時間の都合に合わせて活動できること」が63.1%で最も高く、以下、「自分の体力に合わせて活動できること」(49.3%)、「自分の住む地域で活動できること」(34.3%)と続いている。
- 「自分の時間の都合に合わせて活動できること」は、女性や40～50歳代で特に高くなっている。また、「自分の体力に合わせて活動できること」は60歳以上、「友達や家族と一緒に活動できること」は20～30歳代で高くなっている。



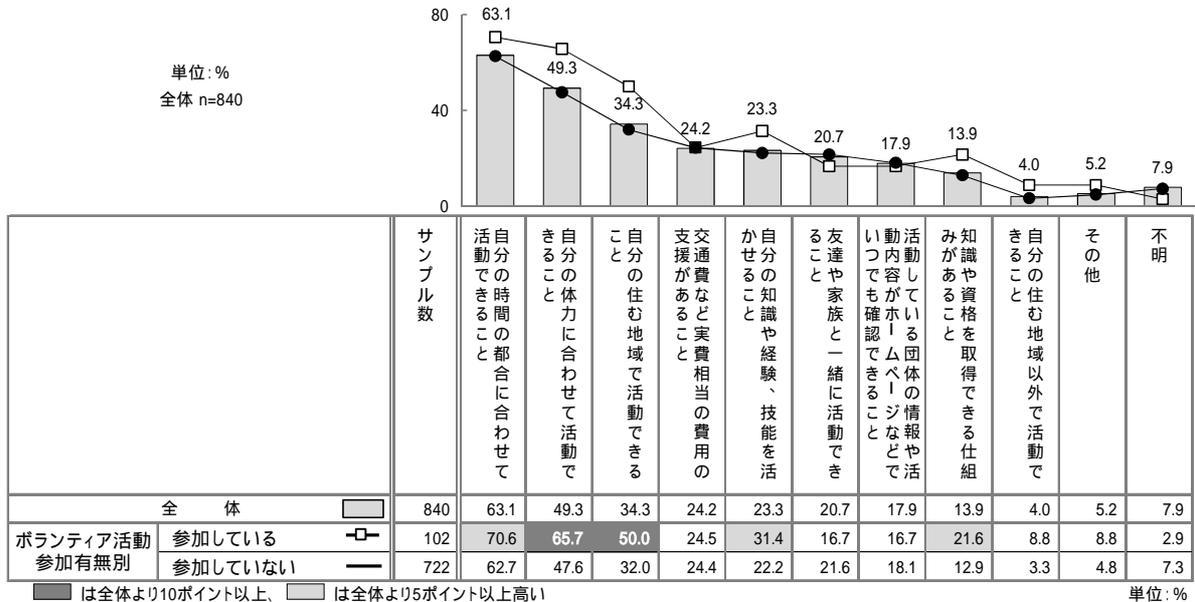
2-3. ボランティア活動など地域の支え合い活動について

(6) 【ボランティア参加別】ボランティア活動に必要な条件や仕組み

問14. 様々な方が、ボランティア活動など地域の支え合い活動に積極的に参加するためには、どういった条件や仕組みが必要だと思いますか。(MA)

ボランティア活動参加有無別にみると、「費用の支援があること」「友達や家族と一緒に活動できること」以外は、参加層の方が高くなっている。

- ボランティア活動に必要な条件や仕組みをボランティア活動参加有無別にみると、総じて参加層の方がスコアが高いが、「交通費など実費相当の費用の支援があること」では差がみられず、「友達や家族と一緒に活動できること」は非参加層の方が高くなっている。



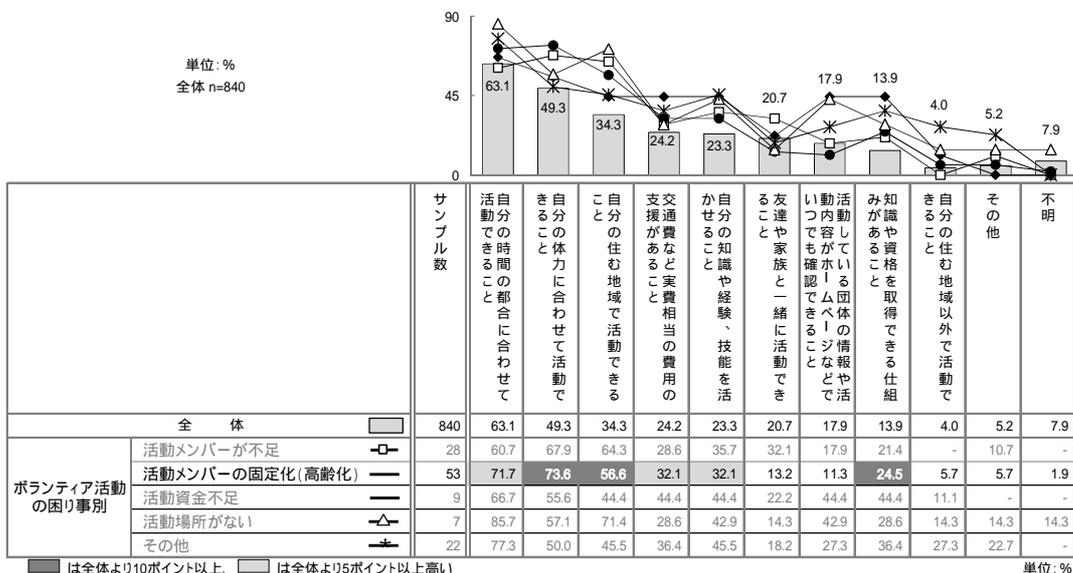
2-3. ボランティア活動など地域の支え合い活動について

(6) 【ボランティア困り事別】ボランティア活動に必要な条件や仕組み

問14. 様々な方が、ボランティア活動など地域の支え合い活動に積極的に参加するためには、どういった条件や仕組みが必要だと思いますか。(MA)

活動メンバーの固定化(高齢化)に困っている層は、特に「自分の体力に合わせて活動できること」「自分の住む地域で活動できること」をあげている。

- ボランティア活動に必要な条件や仕組みをボランティア活動の困り事別にみると、活動メンバーの固定化(高齢化)に困っている層は、「友達や家族と一緒に活動できること」「活動している団体の情報や活動内容がホームページなどでいつでも確認できること」以外は、全体よりスコアが高くなっている。特に「自分の体力に合わせて活動できること」「自分の住む地域で活動できること」は、20ポイント以上高い。

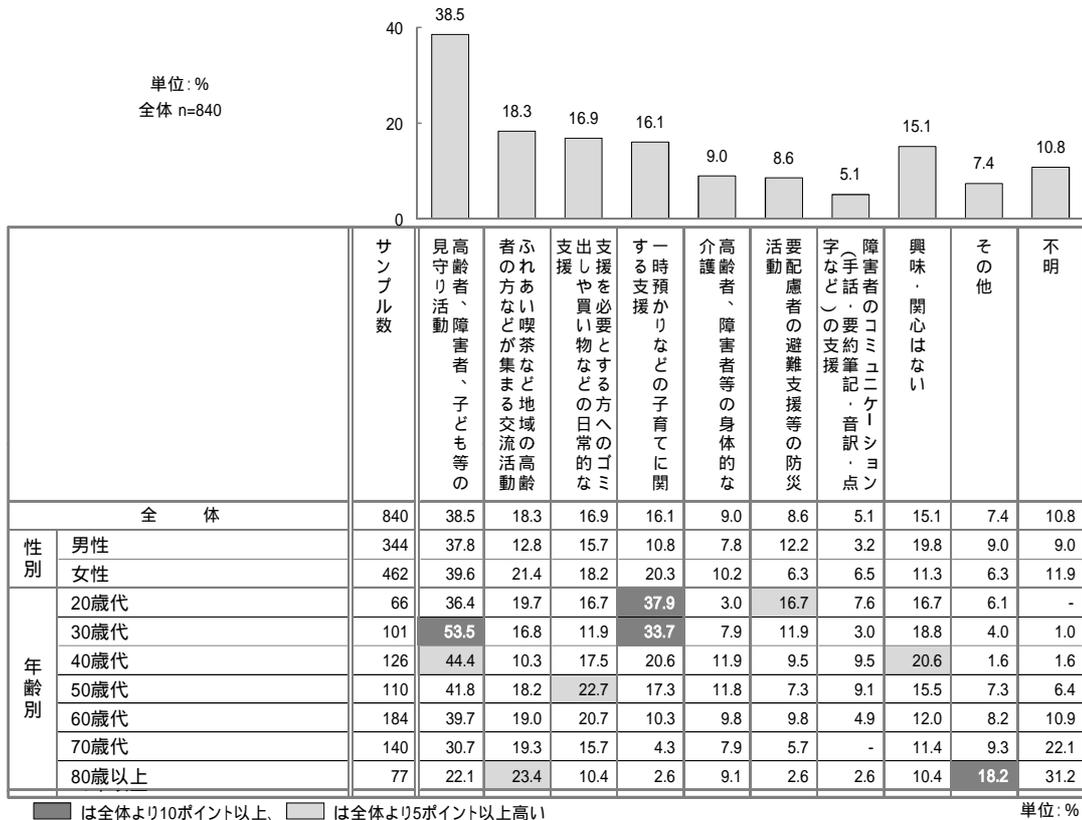


(7) 興味・関心のあるボランティア活動分野

問15. 今後、あなたが、ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加する場合、どの分野に興味や関心をお持ちですか。(MA)

興味・関心のあるボランティア活動分野は、「高齢者、障害者、子ども等の見守り活動」が4割弱で最も高く、特に30～40歳代で高い。

- 興味・関心のあるボランティア活動分野は、「高齢者、障害者、子ども等の見守り活動」が38.5%で最も高い。以下、「ふれあい喫茶など地域の高齢者の方などが集まる交流活動」(18.3%)、「支援を必要とする方へのゴミ出しや買い物などの日常的な支援」(16.9%)、「一時預かりなどの子育てに関する支援」(16.1%)と続いている。
- 性別にみると、女性の方が「ふれあい喫茶など地域の高齢者の方などが集まる交流活動」「一時預かりなどの子育てに関する支援」が高い。
- 年齢別にみると、30～40歳代で「高齢者、障害者、子ども等の見守り活動」、20～30歳代で「一時預かりなどの子育てに関する支援」が高い。

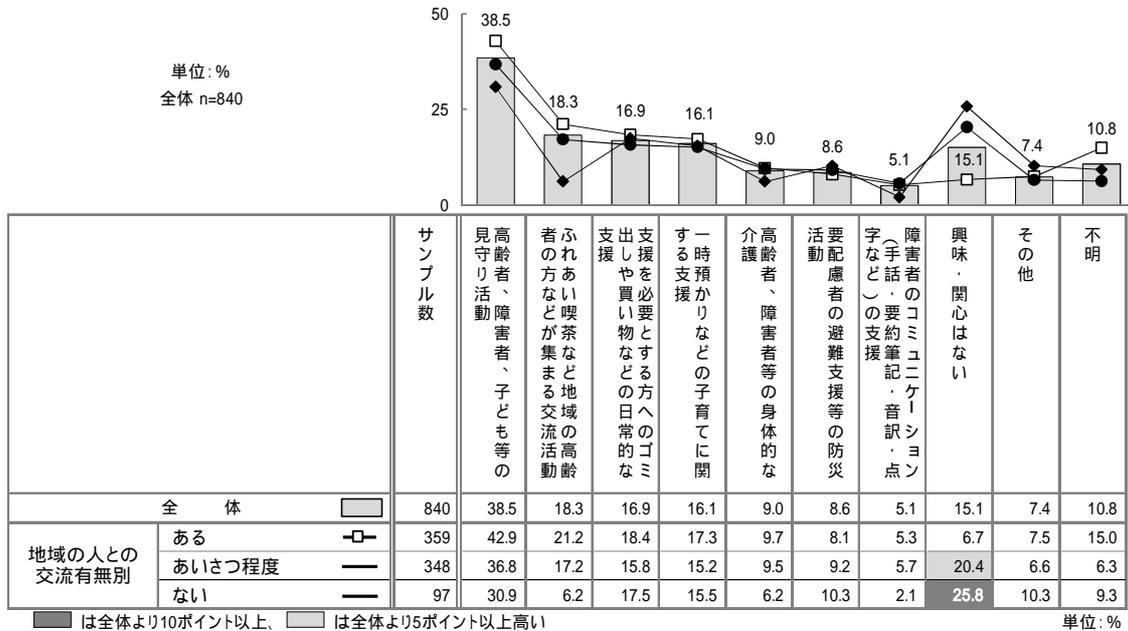


(7) 【地域住民との交流有無別】興味・関心のあるボランティア活動分野

問15. 今後、あなたが、ボランティア活動など地域の支え合い活動に参加する場合、どの分野に興味や関心をお持ちですか。(MA)

興味・関心のあるボランティア活動分野を地域の人との交流有無別にみると、「地域の高齢者の方などが集まる交流活動」での差が大きい。

- 興味・関心のあるボランティア活動分野を地域の人との交流有無別にみると、交流のある層は「高齢者、障害者、子ども等の見守り活動」「ふれあい喫茶など地域の高齢者の方などが集まる交流活動」が特に高い。交流がない層は、「ふれあい喫茶など地域の高齢者の方などが集まる交流活動」が特に低く、「興味・関心はない」が高い。

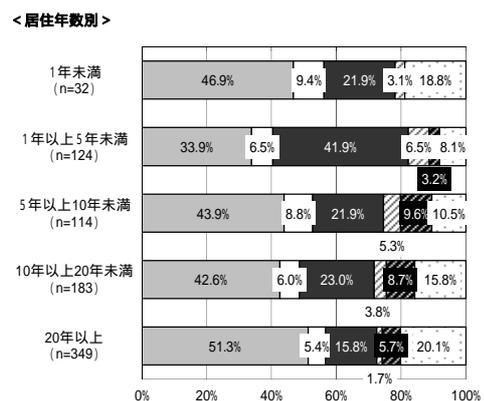
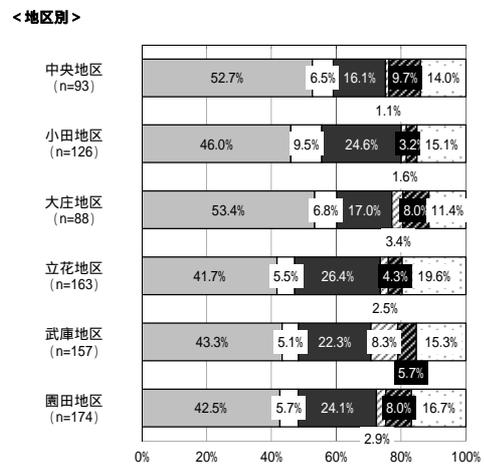
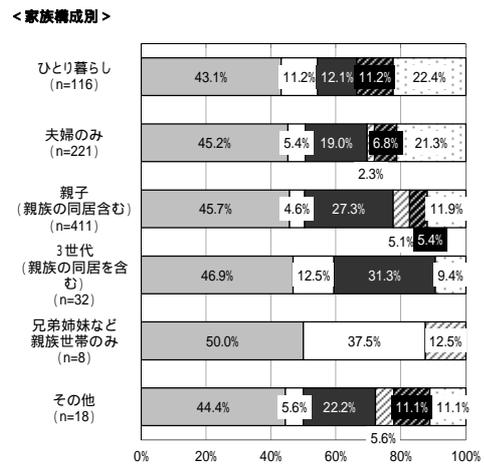
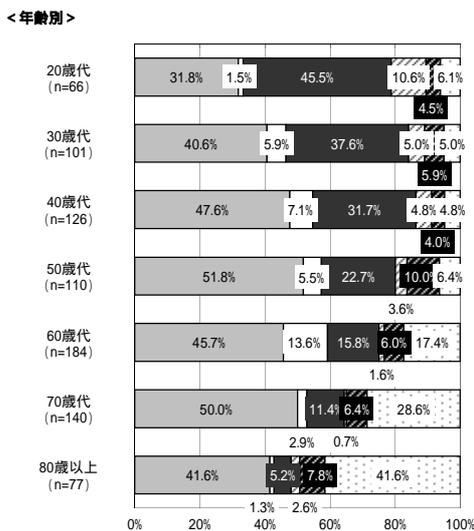
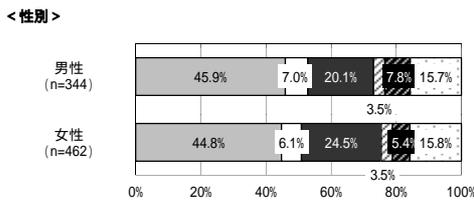
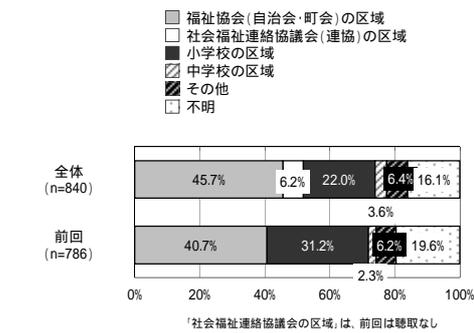


(8) 活動しやすい範囲

問16. あなたが、高齢者や障害者等の見守り・支えあい活動に参加する場合、活動しやすいと思われる範囲をおたずねします。(SA)

活動しやすい範囲は、「福祉協会の区域」が4割半で最も高いが、若年層では「小学校の区域」も高い。

- 活動しやすい範囲は、「福祉協会(自治会・町会)の区域」が45.7%で最も多く、次いで「小学校の区域」が22.0%となっている。
- 「福祉協会(自治会・町会)の区域」は、前回より5ポイント増加。「小学校の区域」は9.2ポイント減少している。
- 年齢別にみると、若年層ほど「小学校の区域」の割合が高く、20歳代で45.5%、80歳以上で5.2%となっている。
- 地区別にみると、中央地区と大庄地区では「福祉協会(自治会・町会)の区域」が半数を超えている。

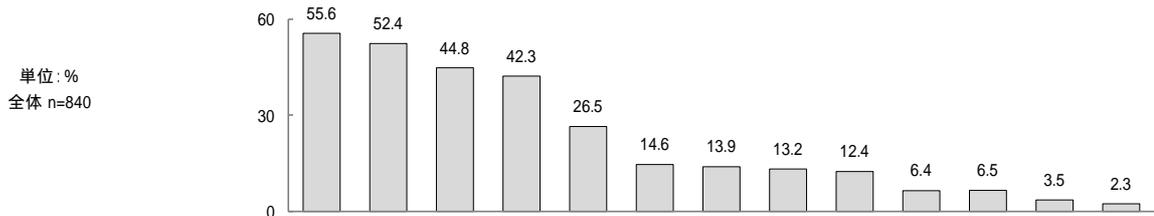


(1) 日常生活に感じる不安

問17. あなたが日常生活において感じている不安には、どのようなものがありますか。(MA)

日常生活に感じる不安は、「健康」「老後の生活」「収入や生活費」「災害」が上位。

- 日常生活に感じる不安は、「自分や家族の健康のこと」(55.6%)、「自分や家族の老後の生活のこと」(52.4%)、「収入や生活費のこと」(44.8%)、「災害にあった時のこと」(42.%)が上位である。
- 性別にみると、「災害にあった時のこと」は女性が8.3ポイント高いが、その他はあまり差がみられない。
- 年齢別にみると、50～70歳代では「自分や家族の健康のこと」、20～30歳代では「収入や生活費のこと」「災害にあった時のこと」「子育てに関すること」、40～50歳代では「自分や家族の老後の生活のこと」「仕事に関すること」が高い。
- 居住年数が短い層では「収入や生活費のこと」「仕事に関すること」「子育てに関すること」が高いが、これは若年層が多いことが影響していると考えられる。



サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後の生活のこと	収入や生活費のこと	災害にあった時のこと	介護、介助に関すること	仕事に関すること	家族や友人、近隣な(人間関係のこと)	住まいのこと	子育てに関すること	相談できる相手がないこと	特になし	その他	不明	不安の平均数	
全 体	840	55.6	52.4	44.8	42.3	26.5	14.6	13.9	13.2	12.4	6.4	6.5	3.5	2.3	2.9
性別															
男性	344	55.2	52.9	44.5	37.8	25.6	15.7	13.1	12.2	10.8	7.3	7.3	4.4	2.0	2.9
女性	462	56.9	52.8	45.2	46.1	27.3	14.1	14.7	13.4	14.1	5.8	6.5	2.6	1.7	3.0
年齢別															
20歳代	66	36.4	39.4	65.2	54.5	6.1	33.3	19.7	18.2	31.8	6.1	6.1	4.5	-	3.2
30歳代	101	40.6	44.6	55.4	52.5	13.9	16.8	14.9	17.8	42.6	5.0	8.9	5.0	-	3.1
40歳代	126	57.1	61.1	54.0	46.0	25.4	29.4	16.7	16.7	21.4	8.7	4.8	1.6	-	3.4
50歳代	110	61.8	65.5	48.2	44.5	28.2	22.7	18.2	18.2	5.5	9.1	7.3	4.5	0.9	3.3
60歳代	184	61.4	53.8	41.3	35.9	33.7	7.6	9.8	7.6	0.5	5.4	6.0	2.2	3.8	2.7
70歳代	140	63.6	58.6	37.9	37.1	30.7	2.1	11.4	10.0	2.1	5.7	7.1	4.3	0.7	2.7
80歳以上	77	58.4	32.5	16.9	36.4	36.4	-	11.7	6.5	1.3	3.9	7.8	2.6	7.8	2.2

■ は全体より10ポイント以上、□ は全体より5ポイント以上高い 単位: %

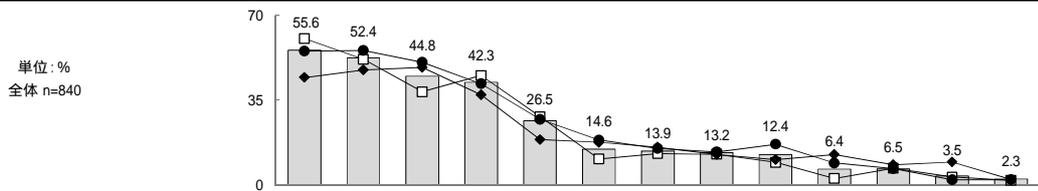
2-4. 日常生活の困り事

(1) 【地域住民との交流有無別】日常生活に感じる不安

問17. あなたが日常生活において感じている不安には、どのようなものがありますか。(MA)

地域の人の交流がある層は、「収入や生活費」「仕事」に関する不安が少ない。

- 日常生活に感じる不安を地域の人の交流有無別にみると、交流がある層は「自分や家族の健康のこと」「災害にあった時のこと」が高い一方、「収入や生活費のこと」「仕事に関すること」が低く、生活が安定していることがうかがえる。



サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後の生活のこと	収入や生活費のこと	災害にあった時のこと	介護、介助に関すること	仕事に関すること	家族や友人、近隣な(人間関係のこと)	住まいのこと	子育てに関すること	相談できる相手がないこと	特になし	その他	不明	
全 体	840	55.6	52.4	44.8	42.3	26.5	14.6	13.9	13.2	12.4	6.4	6.5	3.5	2.3
地域の人との交流有無別														
ある	359	60.4	51.8	38.4	45.1	28.1	10.6	12.8	12.5	9.2	2.5	6.7	3.1	1.7
あいさつ程度	348	55.2	55.5	50.6	41.7	27.0	18.4	14.9	13.5	16.7	8.9	6.6	2.0	2.0
ない	97	44.3	47.4	48.5	37.1	18.6	17.5	15.5	12.4	10.3	12.4	8.2	9.3	2.1

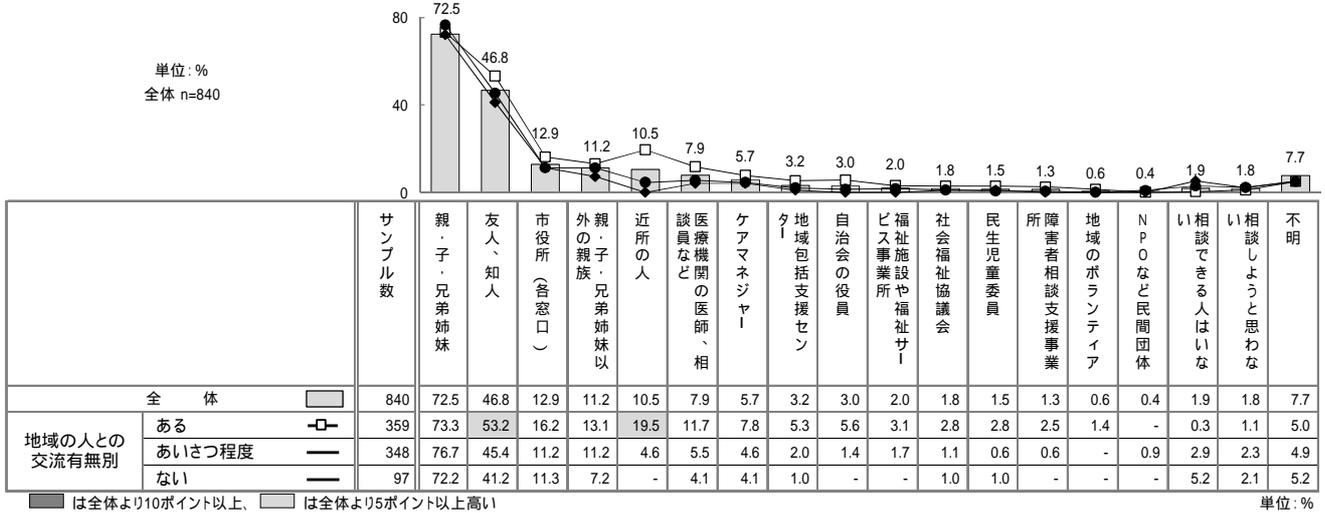
■ は全体より10ポイント以上、□ は全体より5ポイント以上高い 単位: %

(2) 【地域住民との交流有無別】困り事の相談窓口

問18. あなたが、困り事があった時に相談できる人(窓口)はだれですか。(MA)

地域の人との交流がある層は、「友人、知人」「近所の人」の割合が高い。

- 地域の人との交流有無別にみると、ある層は「友人、知人」「近所の人」が高くなっている。

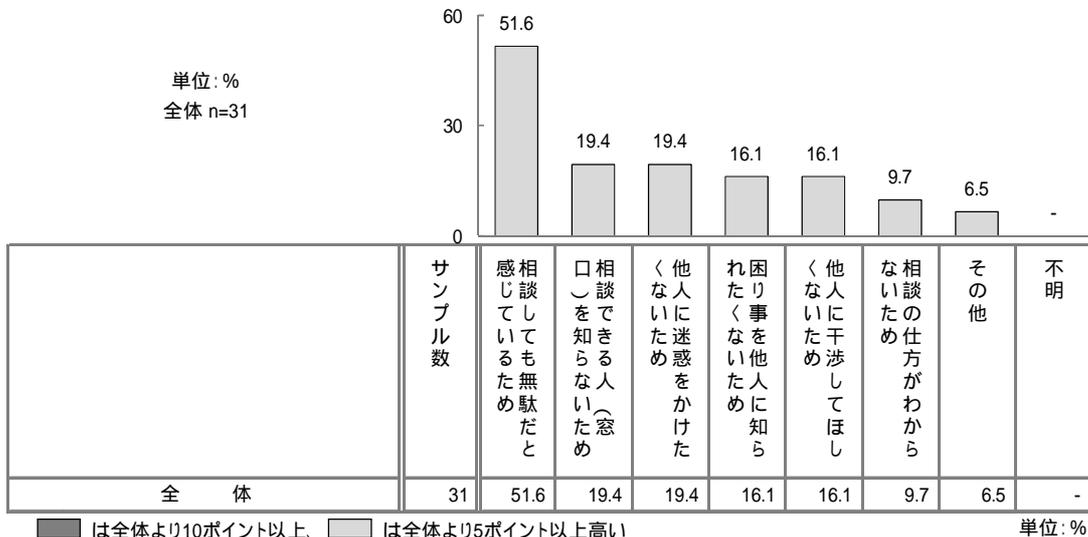


(3) 「相談できる人がいない」「相談しようと思わない」理由

問19. 「相談できる人がいない」、または「相談しようと思わない」を選択した理由は何ですか。(MA) 【問18で「16」「17」とお答えの方へ】

「相談できる人がいない」「相談しようと思わない」理由は、「相談しても無駄だと感じているため」が半数強を占めている。

- 「相談できる人がいない」「相談しようと思わない」理由は、「相談しても無駄だと感じているため」が51.6%で最も高い。「相談できる人(窓口)を知らないため」「他人に迷惑をかけたくないため」が19.4%で続く。

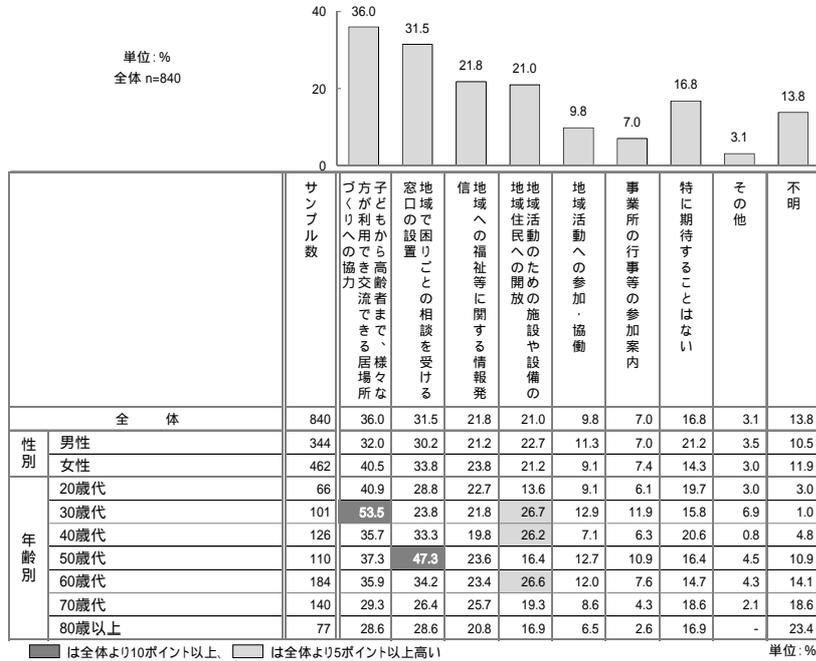


(1) 福祉事業に期待すること

問21. あなたが、地域の福祉事業者に期待することはありますか。(MA)

地域の福祉事業者に期待することは、「交流できる居場所づくり」「相談窓口の設置」が上位。

- 地域の福祉事業者に期待することは、「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」(36.0%)、「地域で困りごとの相談を受ける窓口の設置」(31.5%)が上位である。

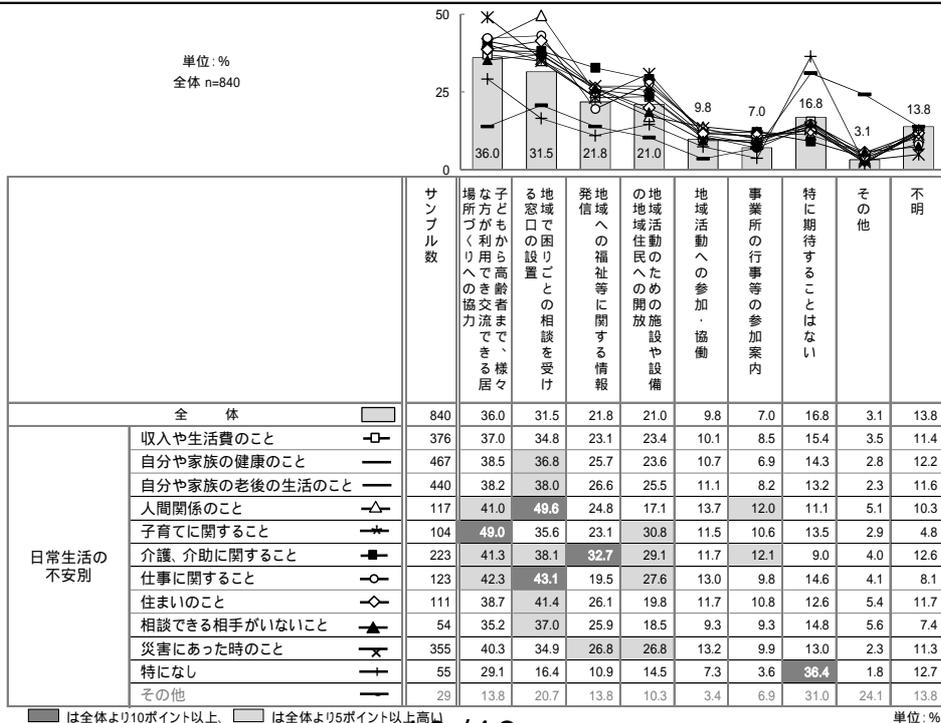


(1) 【日常生活の不安別】福祉事業に期待すること

問21. あなたが、地域の福祉事業者に期待することはありますか。(MA)

子育てに不安を持つ層で「居場所づくりへの協力」、人間関係、仕事に不安を持つ層で「相談窓口の設置」が高くなっている。

- 日常生活の不安別にみると、子育てに関することに不安を持つ層で「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」の割合が、人間関係のことに不安を持つ層、仕事に関することに不安を持つ層で「地域での困りごとの相談を受ける窓口の設置」の割合が、特に高い。

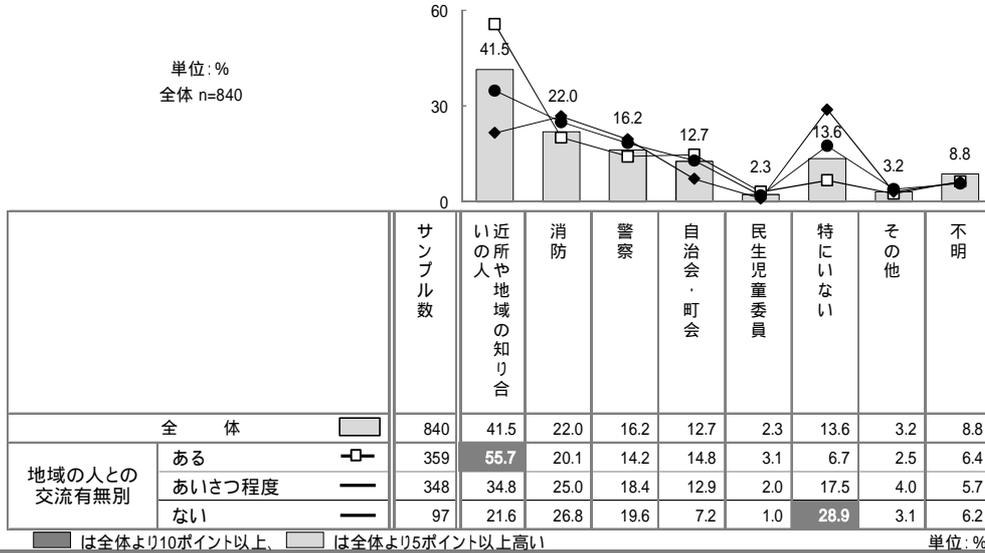


(3) 【地域住民との交流有無別】災害時の安否確認等の声かけをしてもらいたい人

問24. あなたが災害時の避難に際して、安否確認等の声をかけをしてもらいたいと思う人を教えてください。(SA)

地域の人と交流のある層は、「近所や地域の知り合いの人」が特に高い。

- 地域の人との交流有無別にみると、交流のある層は、「近所や地域の知り合いの人」が55.7%と特に高い。交流のない層は、「特にいない」が28.9%で最も高くなっている。

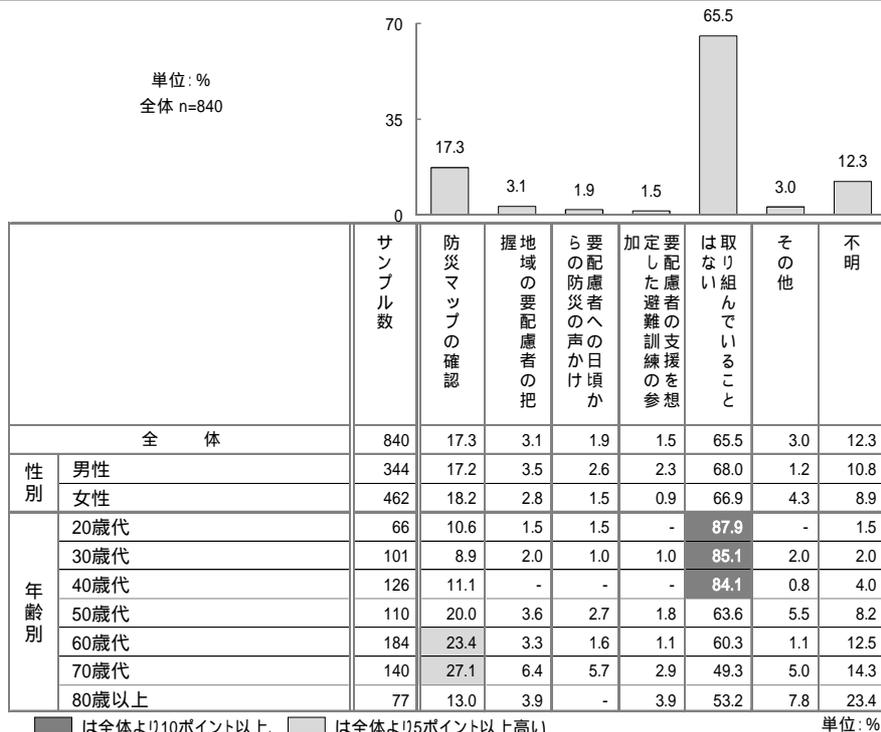


(5) 要配慮者のための日頃の取り組み

問26. 地域にお住まいの要配慮者の避難支援のために、あなたが日頃から取り組んでいることはありますか。(MA)

要配慮者の避難支援のために「取り組んでいることはない」とした人が約6割半を占める。「防災マップの確認」が2割弱で続く。

- 要配慮者の避難支援のために取り組んでいることは、「取り組んでいることはない」が65.5%で非常に高い。取り組み内容としては、「防災マップの確認」が17.3%で最も高い。
- 「防災マップの確認」は、60～70歳代や、3世代層で特に高い。
- 40歳代以下では、「取り組んでいることはない」が8割を超えている。

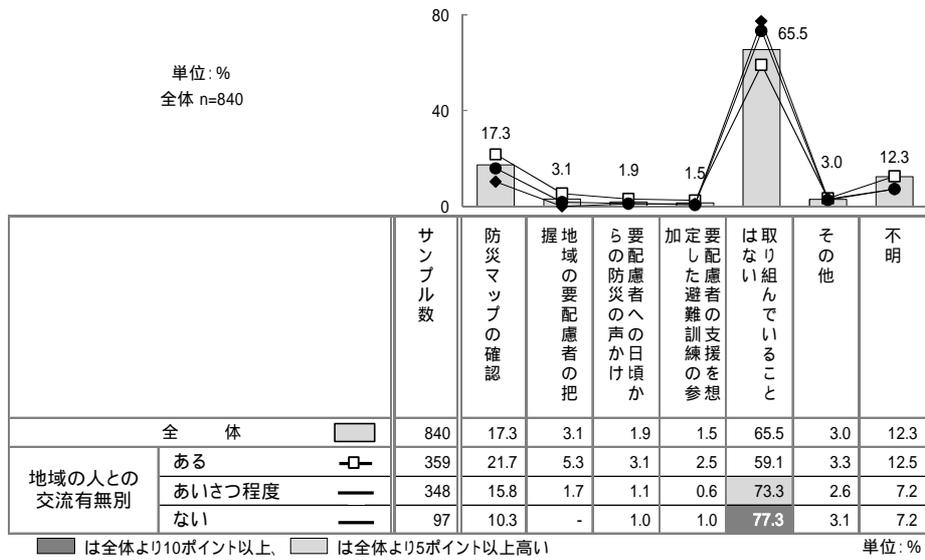


(5) 【地域住民との交流有無別】要配慮者のための日頃の取り組み

問26. 地域にお住まいの要配慮者の避難支援のために、あなたが日頃から取り組んでいることはありますか。(MA)

地域の人と交流がない層ほど、取組率が低い。

● 地域の人との交流有無別にみると、交流がない層ほど「取り組んでいることはない」が高くなっている。



3. 民生・児童委員 調査結果

【属性別のクロス集計分析の注意点】

属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生する。

この誤差を考慮して、30サンプル未満の属性の回答比率については参考値として扱う。

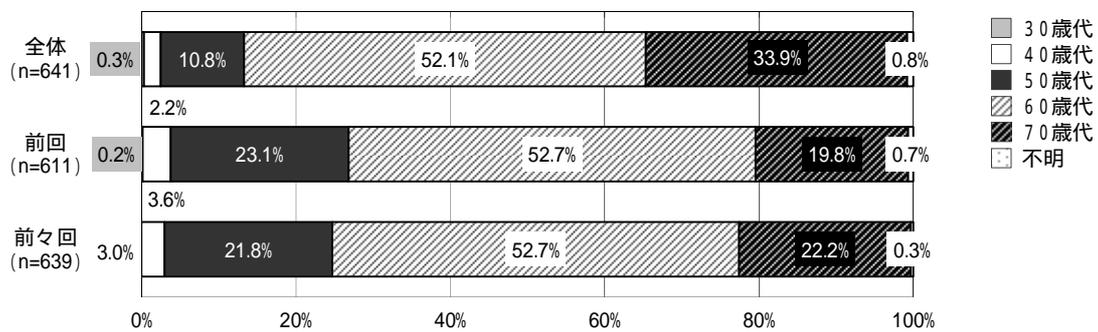
(1) 年齢

問1. あなたの年齢をおうかがいします。(SA)

年齢は、「60歳代」が5割強、「70歳代」が3割強を占めている。

前回、前々回と比べて「70歳代」が大きく増加。

- 年齢は「60歳代」が52.1%と過半数を占めている。次いで、「70歳代」が33.9%となっており、「60～70歳代」で86.0%を占める。
- 前回、前々回と比べると、「70歳代」が10ポイント以上増加している。

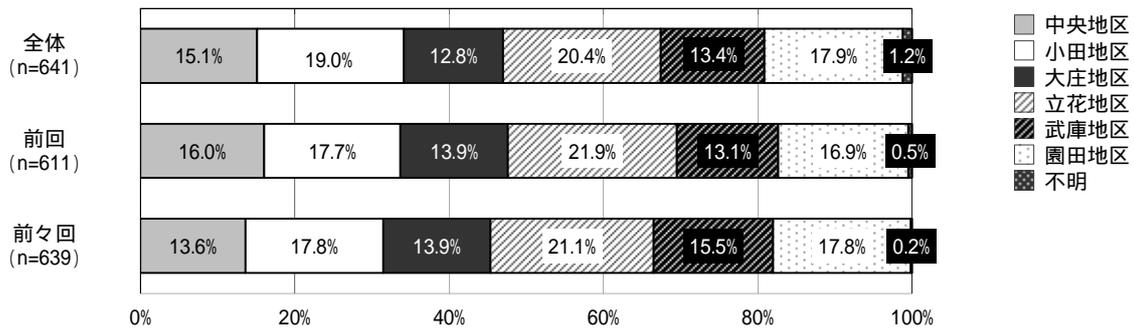


(3) 担当区域

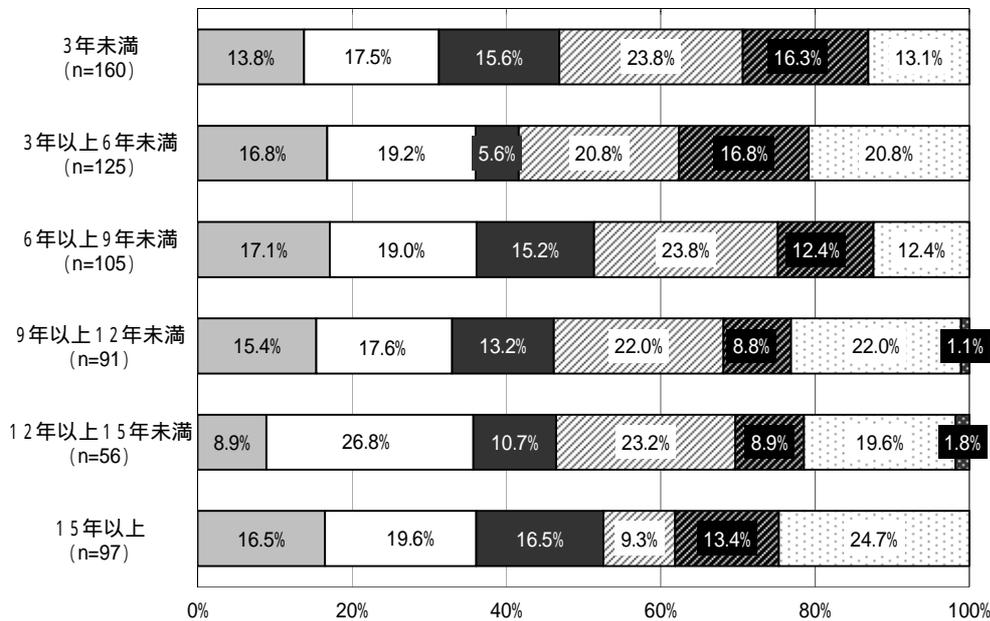
問3. ご担当区域についておうかがいします。(SA)

担当区域は、「立花地区」「小田地区」「園田地区」が2割前後が多い。

- 担当区域は、「立花地区」が20.4%、「小田地区」が19.0%、「園田地区」が17.9%で上位。
- 前回調査との差はあまりみられない。
- 経験別に見ると、15年以上の層は、「園田地区」の割合が最も高い。



< 経験別 >



(2) 支援を受けていない又は拒否している事例

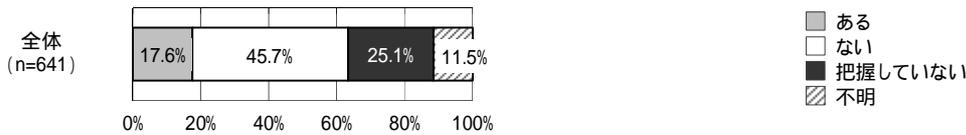
問6. 担当区域において、支援を必要だとは思ふものの、支援を受けていない又は拒否している事例はありますか。(SA)

問6-1. 担当区域において、支援を必要だとは思ふものの、支援を受けていない又は拒否している世帯数(J)【問6で「1.ある」とお答えの方へ】

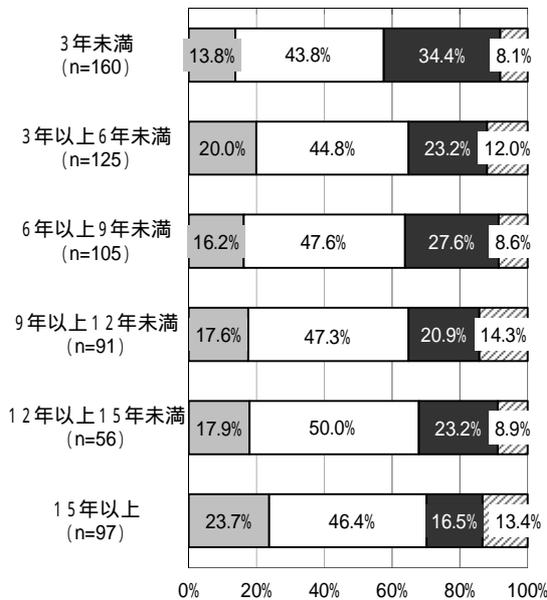
支援を受けていない又は拒否している事例は、17.6%があるとしており、平均世帯数は1.7世帯。立花地区で発生率が高いが、平均世帯数は武庫地区で多い。

- 支援を受けていない又は拒否している事例が「ある」のは17.6%で、「ない」が45.7%、「把握していない」が25.1%となっている。平均世帯数は1.7世帯。
- 経験別にみると、15年以上の層で「把握していない」が最も低く16.5%、「ある」が最も高く23.7%となっている。
- 活動頻度別にみると、ほぼ毎日活動している層で「ある」が35.3%と非常に高い。「把握していない」の割合は、活動頻度が高い層ほど低い。平均世帯数は、活動頻度その他のをのぞくと、いずれも1.6世帯となっている。

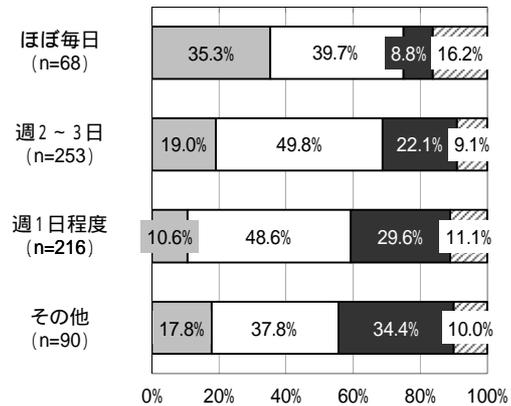
< 支援を受けていない又は拒否している事例 >



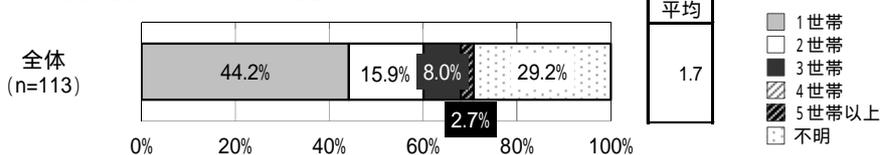
< 経験別 >



< 活動頻度別 >



< 支援を受けていない又は拒否している世帯数 >



平均
1.7

< 問6: 支援の拒否理由 >

内容	サンプル数
・ 本人が必要としない	16
・ 家族が必要としない	13
・ 他人が自宅に入る事を拒む	10
・ 訪問しても会えない	8
・ 他人に世話をかけたくない	8
・ 人と会いたくない	5
・ プライド	4
・ 家族が近隣に住んでいるため	4

内容	サンプル数
・ 家族と同居のため、名簿にあがらない	2
・ 費用がかかるため	2
・ 民生委員を拒否する	2
・ 別機関に支援を頼んでいるため	2
・ 支援を受けたいが補助などの基準に満たない	2
・ その他	28
・ 無回答	14

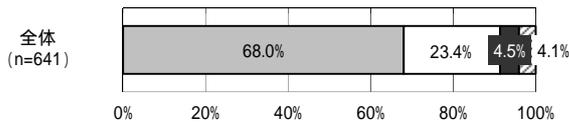
(3) 区域の地域福祉活動の有無

問7. 担当区域で地域福祉活動(ふれあい喫茶や老人給食、子育てサロンなどの集いの場や、高齢者等の見守り活動など)が行われていますか。(SA)

地域福祉活動が「行われている」のは7割弱。

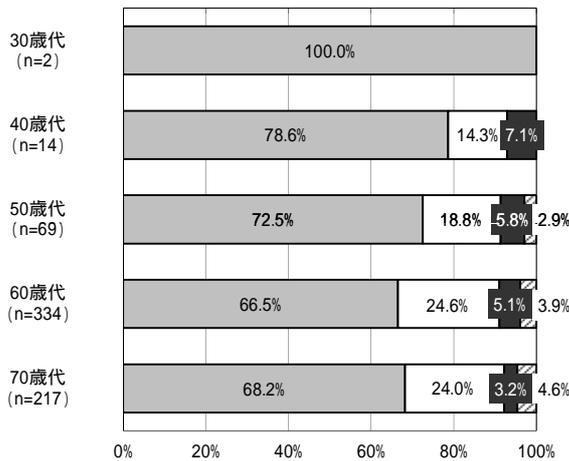
大庄地区での実施率が9割強と非常に高い一方、武庫地区では5割強と低い。

- 地域福祉活動(ふれあい喫茶や老人給食、子育てサロンなどの集いの場や、高齢者等の見守り活動など)が「行われている」のは68.0%、「行われていない」が23.4%、「把握していない」が4.5%となっている。
- 地区別に見ると、大庄地区で「行われている」が92.7%と非常に高い。一方、武庫地区では52.3%と低い。
- 活動頻度別に見ると、活動頻度が高い層ほど「行われている」が高くなっている。

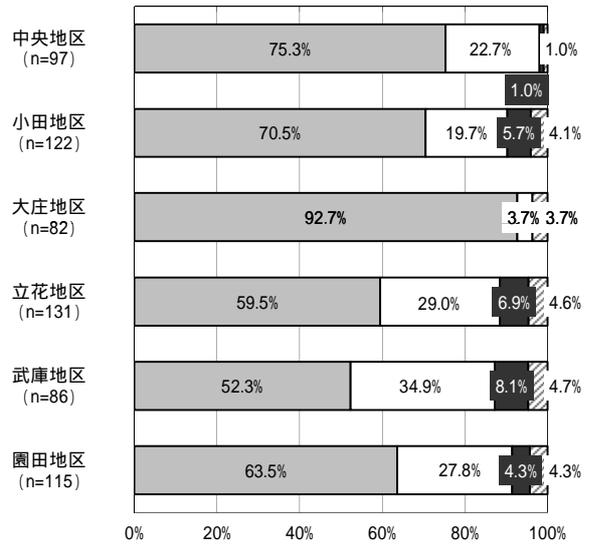


行われている
 行われていない
 把握していない
 不明

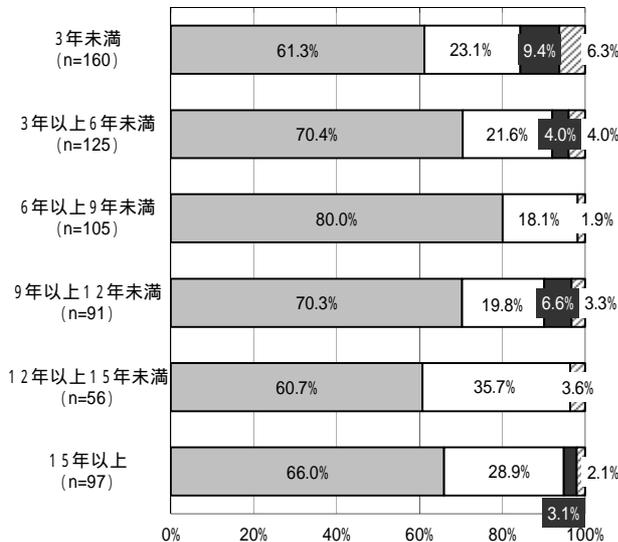
< 年齢別 >



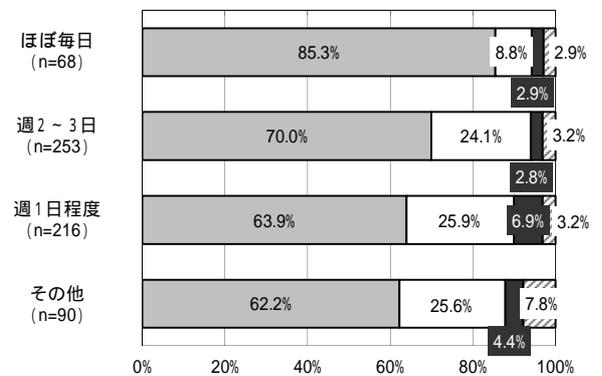
< 地区別 >



< 経験別 >



< 活動頻度別 >



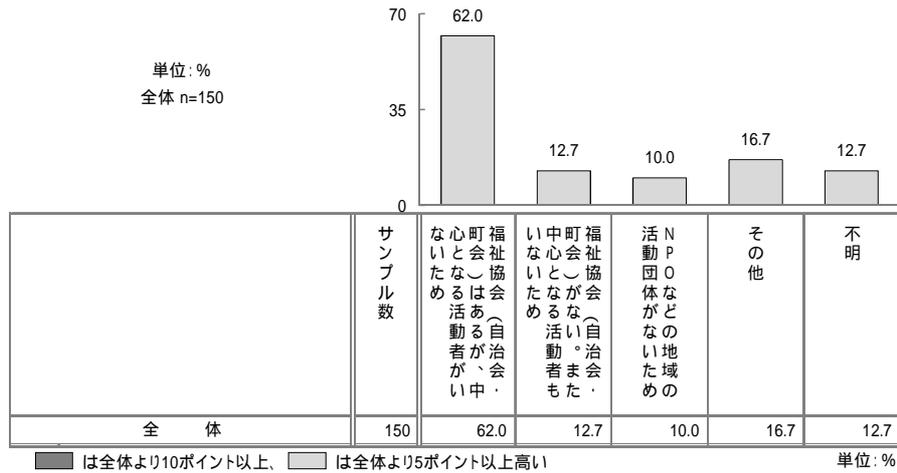
(4) 地域福祉活動が行われていない理由

問8. 担当区域で地域福祉活動が行われていない理由は何だと思えますか。(MA) 【問7で「2.行われていない」とお答えの方へ】

地域福祉活動が行われていない理由は、「福祉協会はあるが、中心となる活動者がいない」が6割強と多い。

特に、週1日程度の活動頻度の層で高くなっている。

- 地域福祉活動が行われていない理由は、「福祉協会(自治会・町会)はあるが、中心となる活動者がいないため」が62.0%で圧倒的に高い。

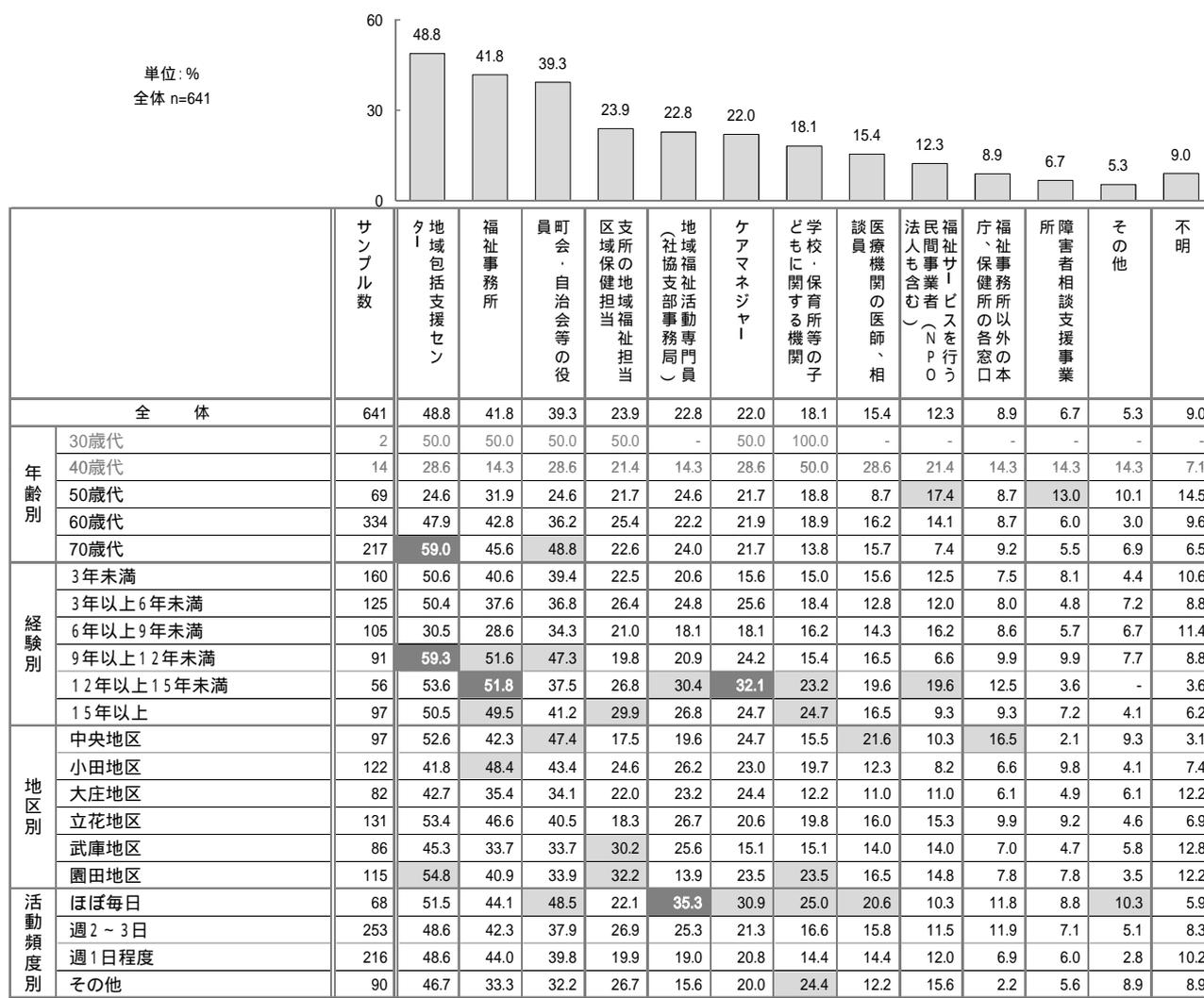


(2) 今後必要となる相談先・連携先

問11. これからの活動の中で、新たに相談や連携が必要と考えているところはどこですか。(MA)

今後必要となる相談先・連携先は、「地域包括支援センター」がトップ。

- 今後必要となる相談先・連携先は、「地域包括支援センター」(48.8%)、「福祉事務所」(41.8%)、「町会・自治会等の役員」(39.3%)の順に上位。
- 経験別に見ると、9年以上の経験がある層は、「福祉事務所」の割合が高くなっている。
- 活動頻度別に見ると、ほぼ毎日活動している層は、「地域福祉活動専門員(社協支部事務局)」が高い。



	サンプル数	地域包括支援センター	福祉事務所	町会・自治会等の役員	区域保健担当	支所の地域福祉担当(社協支部事務局)	ケアマネジャー	学校・保育所等の子どもに関する機関	医療機関の医師、相談員	民間事業者(NPO含む)	福祉サービスを行う福祉事業者(各窓口)	福祉事務所以外の本所	障害者相談支援事業所	その他	不明
全体	641	48.8	41.8	39.3	23.9	22.8	22.0	18.1	15.4	12.3	8.9	6.7	5.3	9.0	
年齢別	30歳代	2	50.0	50.0	50.0	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	14	28.6	14.3	28.6	21.4	14.3	28.6	28.6	21.4	14.3	14.3	14.3	14.3	7.1
	50歳代	69	24.6	31.9	24.6	21.7	24.6	21.7	18.8	8.7	17.4	8.7	13.0	10.1	14.5
	60歳代	334	47.9	42.8	36.2	25.4	22.2	21.9	18.9	16.2	14.1	8.7	6.0	3.0	9.6
	70歳代	217	59.0	45.6	48.8	22.6	24.0	21.7	13.8	15.7	7.4	9.2	5.5	6.9	6.5
経験別	3年未満	160	50.6	40.6	39.4	22.5	20.6	15.6	15.6	12.5	7.5	8.1	4.4	10.6	
	3年以上6年未満	125	50.4	37.6	36.8	26.4	24.8	25.6	18.4	12.8	12.0	8.0	4.8	7.2	8.8
	6年以上9年未満	105	30.5	28.6	34.3	21.0	18.1	18.1	16.2	14.3	16.2	8.6	5.7	6.7	11.4
	9年以上12年未満	91	59.3	51.6	47.3	19.8	20.9	24.2	15.4	16.5	6.6	9.9	9.9	7.7	8.8
	12年以上15年未満	56	53.6	51.8	37.5	26.8	30.4	32.1	23.2	19.6	19.6	12.5	3.6	-	3.6
15年以上	97	50.5	49.5	41.2	29.9	26.8	24.7	24.7	16.5	9.3	9.3	7.2	4.1	6.2	
地区別	中央地区	97	52.6	42.3	47.4	17.5	19.6	24.7	15.5	21.6	10.3	16.5	2.1	9.3	3.1
	小田地区	122	41.8	48.4	43.4	24.6	26.2	23.0	19.7	12.3	8.2	6.6	9.8	4.1	7.4
	大庄地区	82	42.7	35.4	34.1	22.0	23.2	24.4	12.2	11.0	11.0	6.1	4.9	6.1	12.2
	立花地区	131	53.4	46.6	40.5	18.3	26.7	20.6	19.8	16.0	15.3	9.9	9.2	4.6	6.9
	武庫地区	86	45.3	33.7	33.7	30.2	25.6	15.1	15.1	14.0	14.0	7.0	4.7	5.8	12.8
	園田地区	115	54.8	40.9	33.9	32.2	13.9	23.5	23.5	16.5	14.8	7.8	7.8	3.5	12.2
活動頻度別	ほぼ毎日	68	51.5	44.1	48.5	22.1	35.3	30.9	25.0	20.6	10.3	11.8	8.8	10.3	5.9
	週2~3日	253	48.6	42.3	37.9	26.9	25.3	21.3	16.6	15.8	11.5	11.9	7.1	5.1	8.3
	週1日程度	216	48.6	44.0	39.8	19.9	19.0	20.8	14.4	14.4	12.0	6.9	6.0	2.8	10.2
	その他	90	46.7	33.3	32.2	26.7	15.6	20.0	24.4	12.2	15.6	2.2	5.6	8.9	8.9

■ は全体より10ポイント以上、□ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

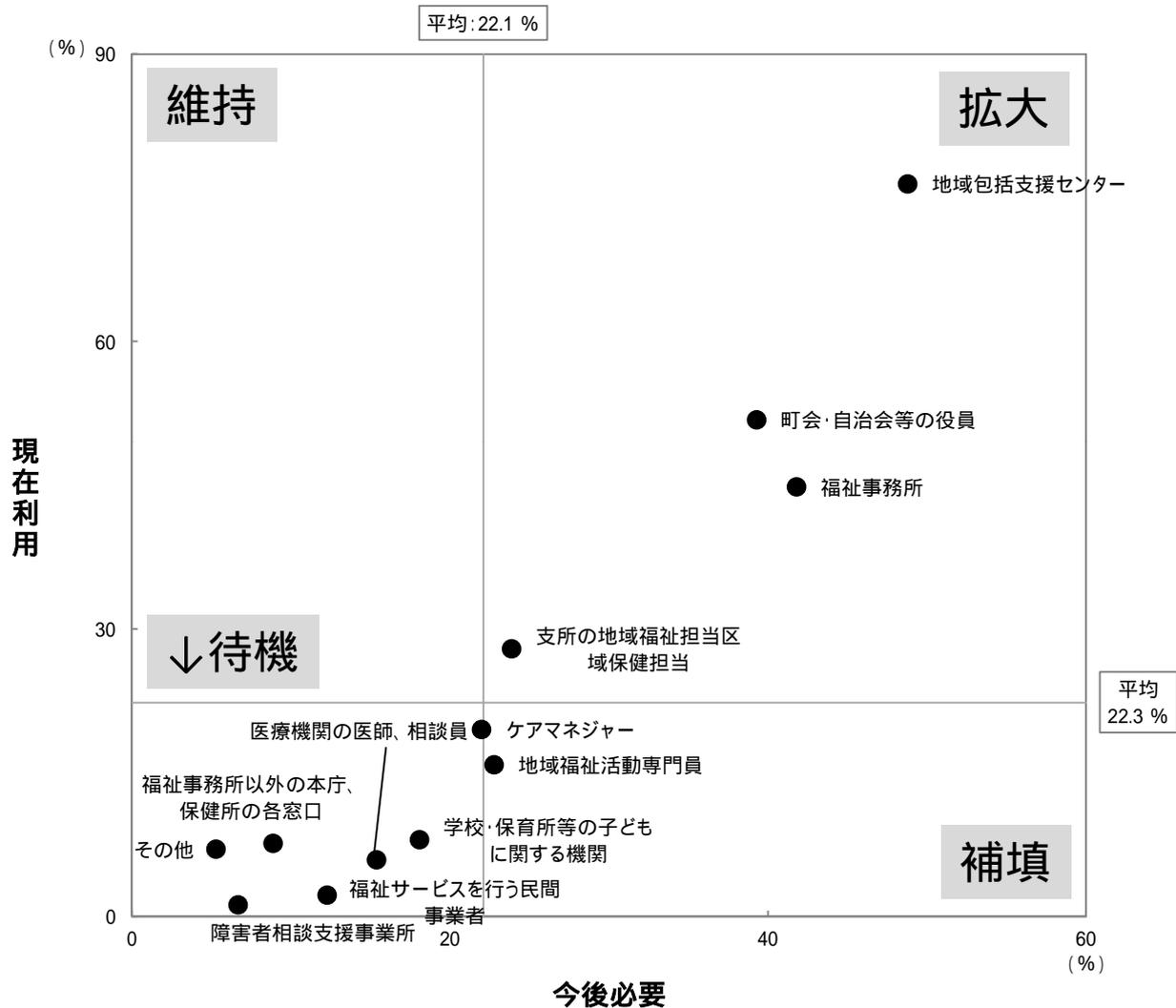
(3) 現在の相談・協力先と今後必要となる相談・連携先の4象限分析

問10. 普段の活動の中で、相談したり協力を求めるところはどこですか。(MA)

問11. これからの活動の中で、新たに相談や連携が必要と考えているところはどこですか。(MA)

現在の利用度も今後の必要度も高い「拡大」領域には、「地域包括支援センター」「町会・自治会等の役員」「福祉事務所」「支所の地域福祉担当区域保健担当」がみられる。

現在の利用度は低いが今後の必要度が高い「補填」領域には、「地域福祉活動専門員」がみられ、境界線上には「ケアマネジャー」がある。



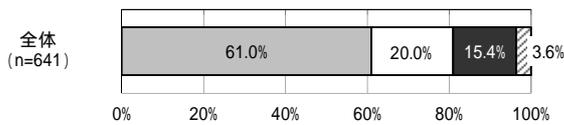
(6) 区域の生活・福祉課題を定期的に話し合う場の有無

問14. 担当区域の生活・福祉課題を解決するために関係機関や関係者が集まり定期的に話し合う場はありますか。(SA)

区域の生活・福祉課題を定期的に話し合う場があるのは、全体の6割強。

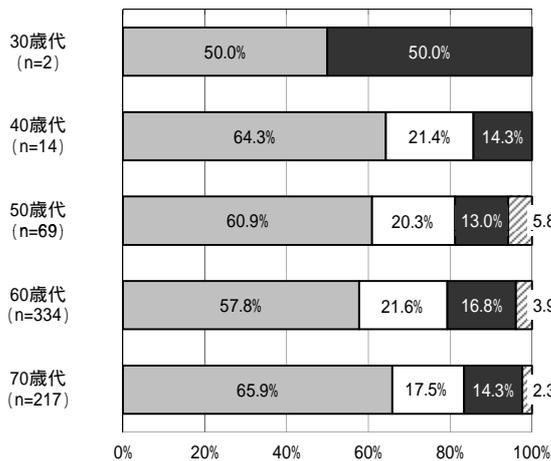
中央地区では約7割と高い。

- 区域の生活・福祉課題を定期的に話し合う場が「ある」としたのは、61.0%。「ない」が20.0%、「把握していない」が15.4%となっている。
- 地区別にみると、中央地区で「ある」が69.1%と最も高く、園田地区で51.3%と最も低い。
- 活動頻度別にみると、その他をのぞいて、活動頻度が高い層の方が「ある」の割合が高い。

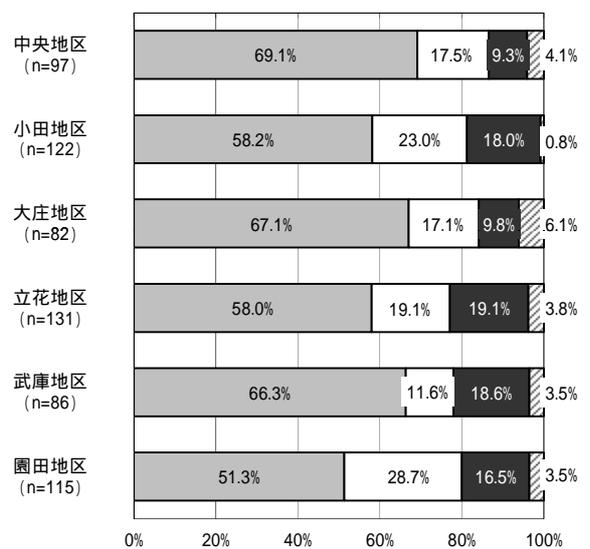


ある
 ない
 把握していない
 不明

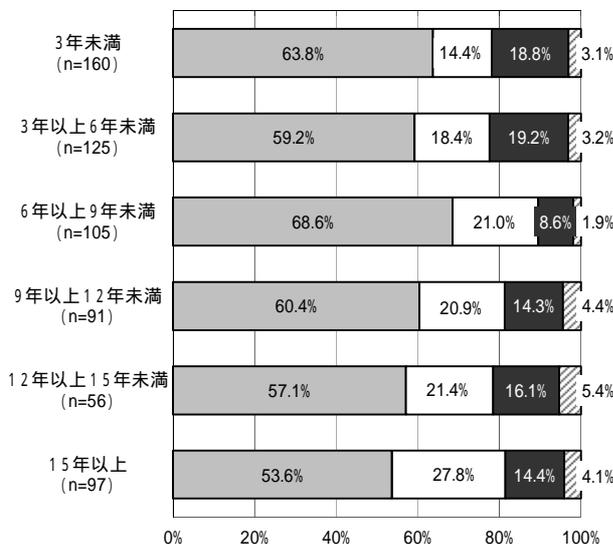
<年齢別>



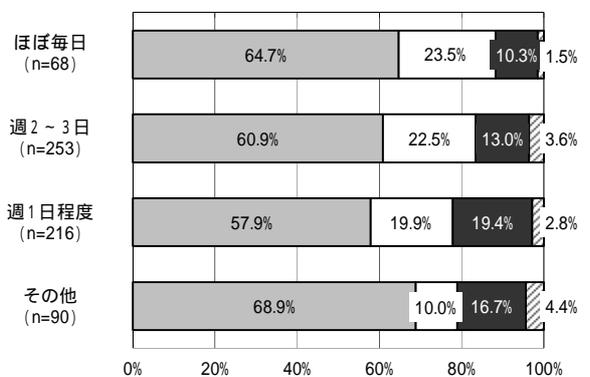
<地区別>



<経験別>



<活動頻度別>



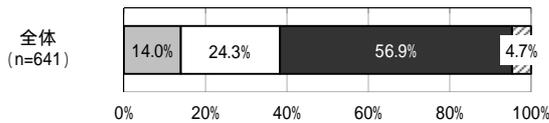
(5) 「子ども食堂」の必要性

問22. 最近よく報道されている「子ども食堂」は担当区域に必要だと思いますか。(SA)

「子ども食堂」の必要性をみると、「必要」とした人は全体の14.0%。

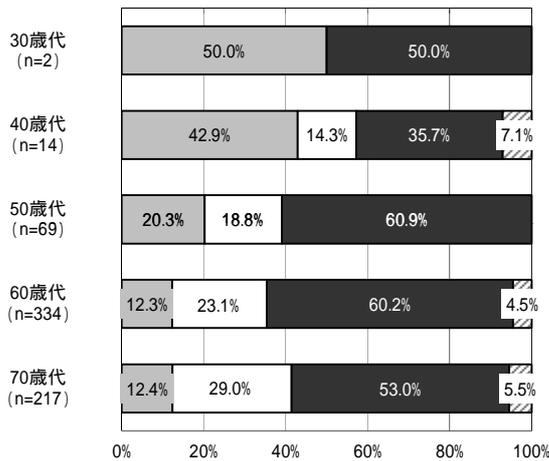
しかし、園田地区では30.4%と非常に高い。

- 「子ども食堂」が「必要」とした人は14.0%と約1割半。「必要ない」が24.3%で、「わからない」が過半数(56.9%)を占めている。
- 地区別に見ると、園田地区で「必要」が30.4%と非常に高くなっている。一方、大庄地区では「必要」は4.9%と低い。
- 活動頻度別にみると、ほぼ毎日活動している層で「必要」が23.5%と高い。

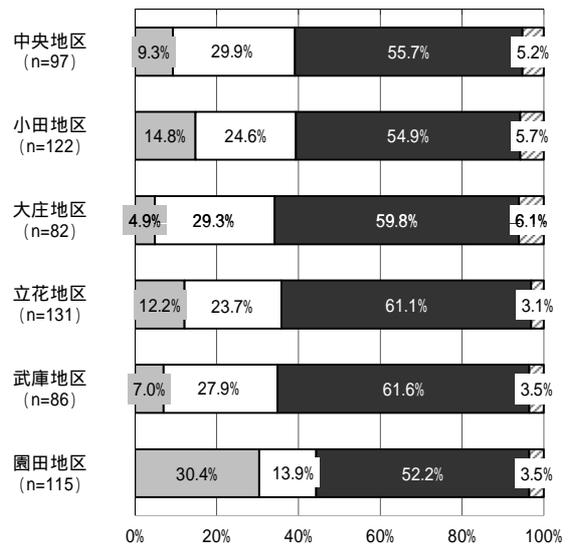


■ 必要
□ 必要ない
■ わからない
▨ 不明

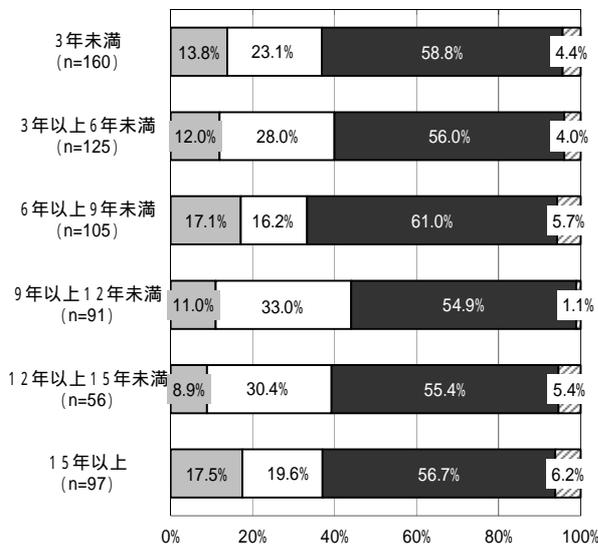
<年齢別>



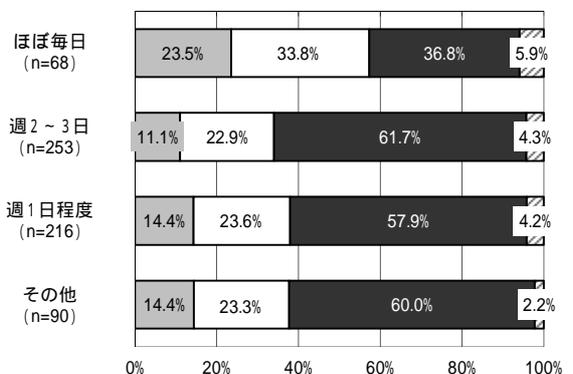
<地区別>



<経験別>



<活動頻度別>



4 . 福祉事業者 調査結果

【属性別のクロス集計分析の注意点】

属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生する。

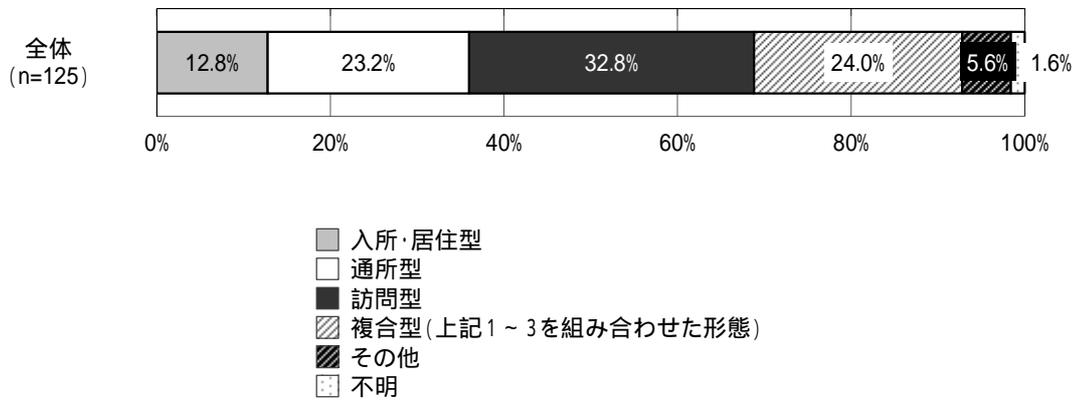
この誤差を考慮して、30サンプル未満の属性の回答比率については参考値として扱う。

(1) 事業所の形態

問1. 貴事業所は次のどの形態に当てはまりますか。(SA)

事業所の形態は、「訪問型」が最も多く3割強。

- 事業所の形態は、「訪問型」が最も多く32.8%、次いで「複合型」が24.0%、「通所型」が23.2%、「入所・居住型」が12.8%となっている。



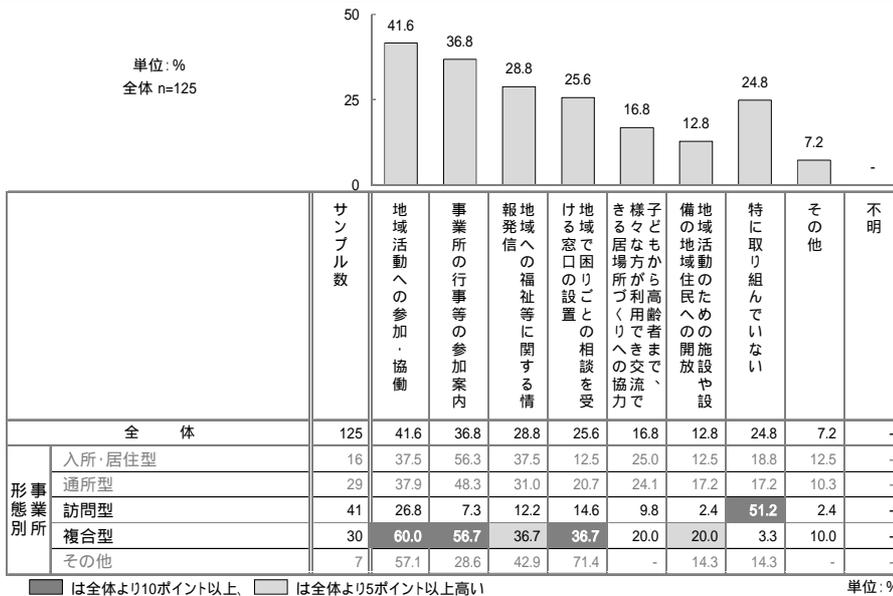
(1) 地域での現在の取り組み

問5. 貴事業者は地域において、現在、どのような取り組みを実施していますか。(MA)

地域での現在の取り組みは、「地域活動への参加・協働」が4割強でトップ。

複合型では全体的に取組率が高いが、訪問型では低い。

- 地域での現在の取り組みは、「地域活動への参加・協働」(41.6%)、「事業所の行事等の参加案内」(36.8%)、「地域への福祉等に関する情報発信」(28.8%)、「地域で困りごとの相談を受ける窓口の設置」(25.6%)の順に上位となっている。
- 事業所形態別にみると複合型は総じて割合が高い傾向であるが、訪問型は「取り組んでいない」が51.2%と高い。



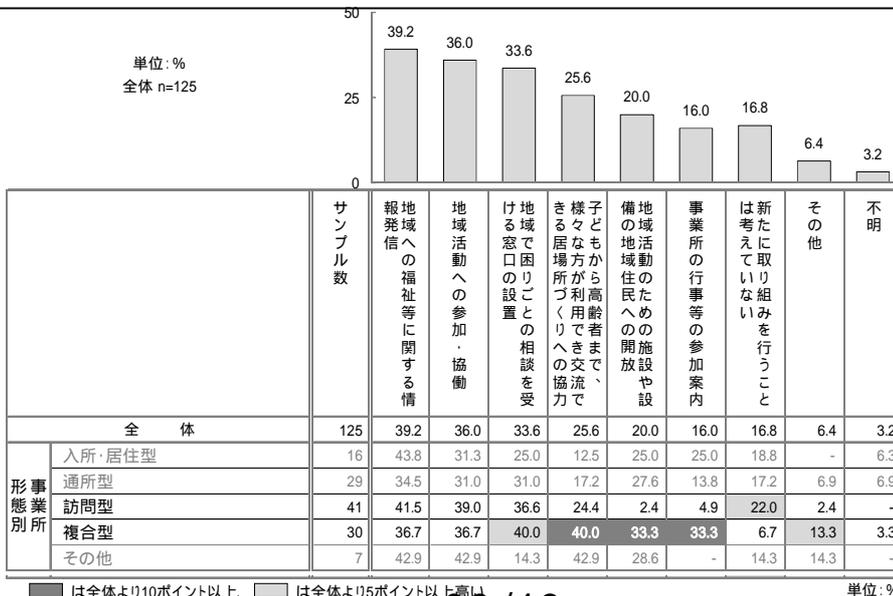
(2) 地域での今後の取り組み

問6. 今後、貴事業所が地域において新たに取り組むとすれば、どのような活動ですか。(MA)

地域での今後の取り組みは、「地域への福祉等に関する情報発信」が約4割でトップ。

取組意向は複合型で高く、訪問型で低め。

- 地域での今後の取り組みは、「地域への福祉等に関する情報発信」(39.2%)、「地域活動への参加・協働」(36.0%)、「地域で困りごとの相談を受ける窓口の設置」(33.6%)の順に上位。
- 事業所形態別にみると、複合型では「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」「地域活動のための施設や設備の地域住民への開放」「事業所の行事等の参加案内」が全体より高くなっている。訪問型は「新たに取り組むことを考えていない」が全体より高い。



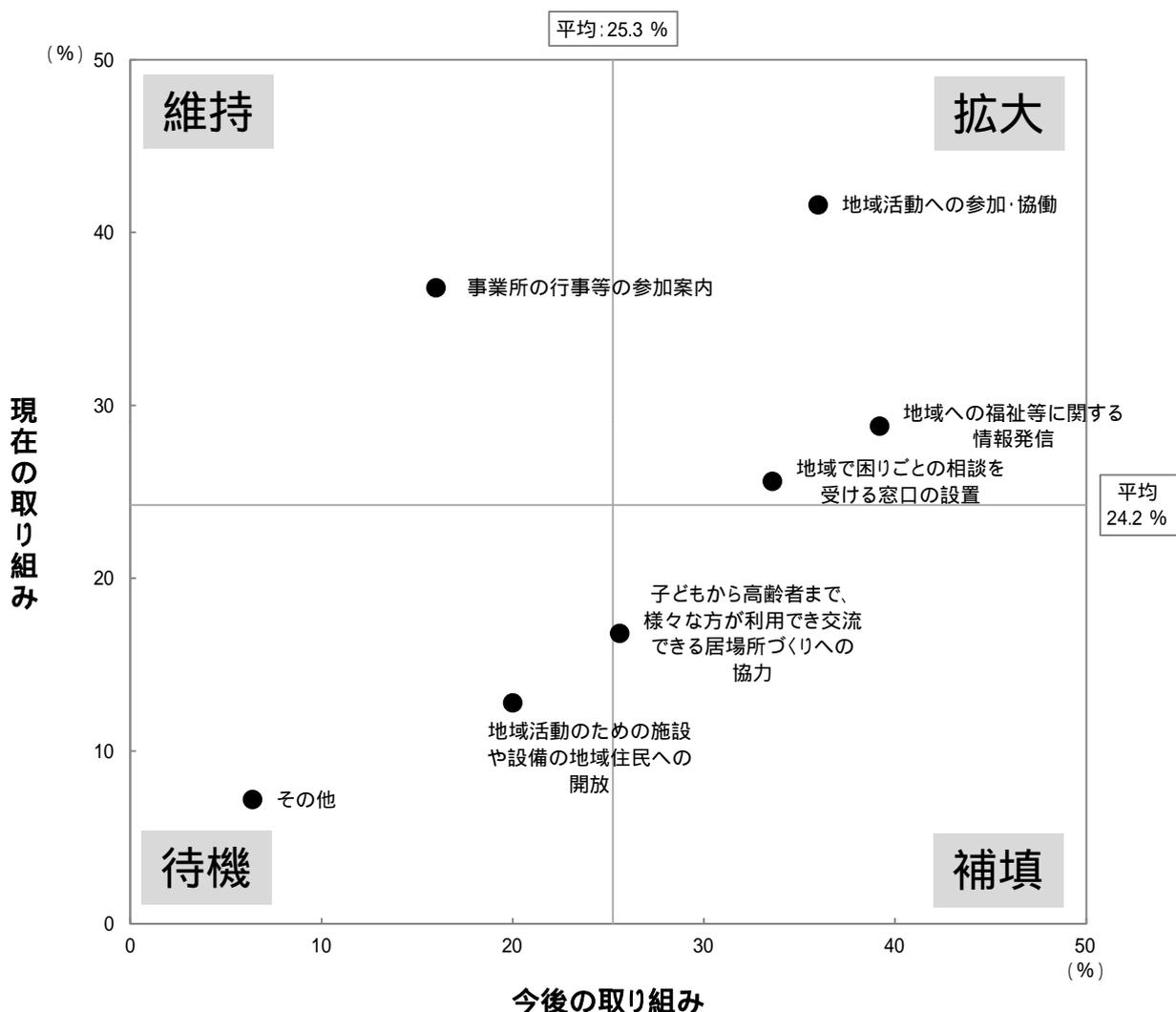
(3) 現在の取り組みと今後の取り組みの4象限分析

問5. 貴事業者は地域において、現在、どのような取組みを実施していますか。(MA)

問6. 今後、貴事業所が地域において新たに取り組むとすれば、どのような活動ですか。(MA)

現在の取り組みも今後の取り組みも高い「拡大」領域には、「地域活動への参加・協働」「情報発信」「相談窓口の設置」がみられる。

現在の取り組みは低いが今後の取り組みが高い「補填」領域には、「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」がみられる。

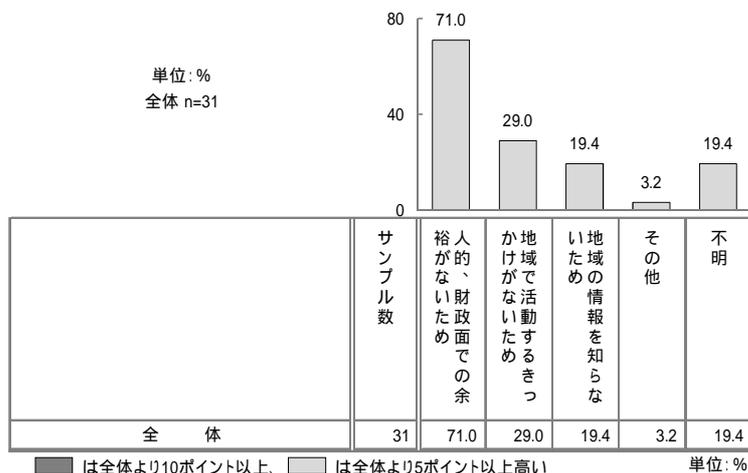


(4) 地域において活動に取り組んでいない理由

問7. 地域において活動に取り組んでいない理由は何ですか。(MA) 【問5で「7.特に取り組んでいない」とお答えの方へ】

地域において活動に取り組んでいない理由は、「人的、財政面での余裕がない」が圧倒的に高い。

- 地域において活動に取り組んでいない理由は、「人的、財政面での余裕がないため」が71.0%で圧倒的に高い。「地域で活動するきっかけがないため」が29.0%、「地域の情報を知らないため」が19.4%となっている。

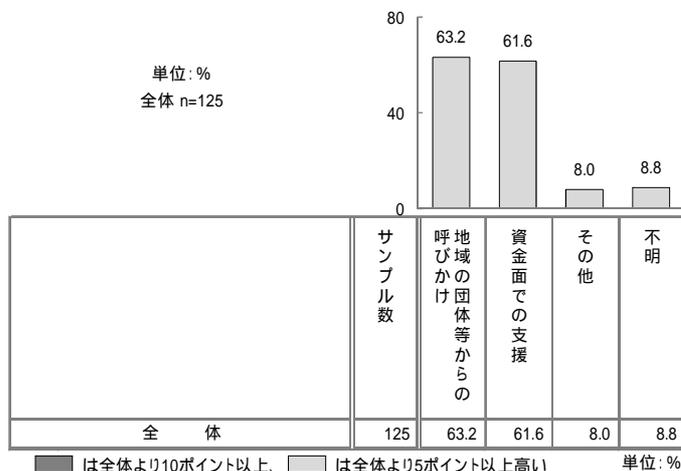


(5) 地域の活動に取り組むために必要な仕組み

問8. 地域の活動に取り組むためには、こういった仕組みがあれば、取組みやすいですか。(MA)

地域の活動に取り組むために必要な仕組みは、「地域の団体等からの呼びかけ」「資金面での支援」の2つがともに6割強。

- 地域の活動に取り組むために必要な仕組みは、「地域の団体等からの呼びかけ」(63.2%)、「資金面での支援」(61.6%)が並んで上位。

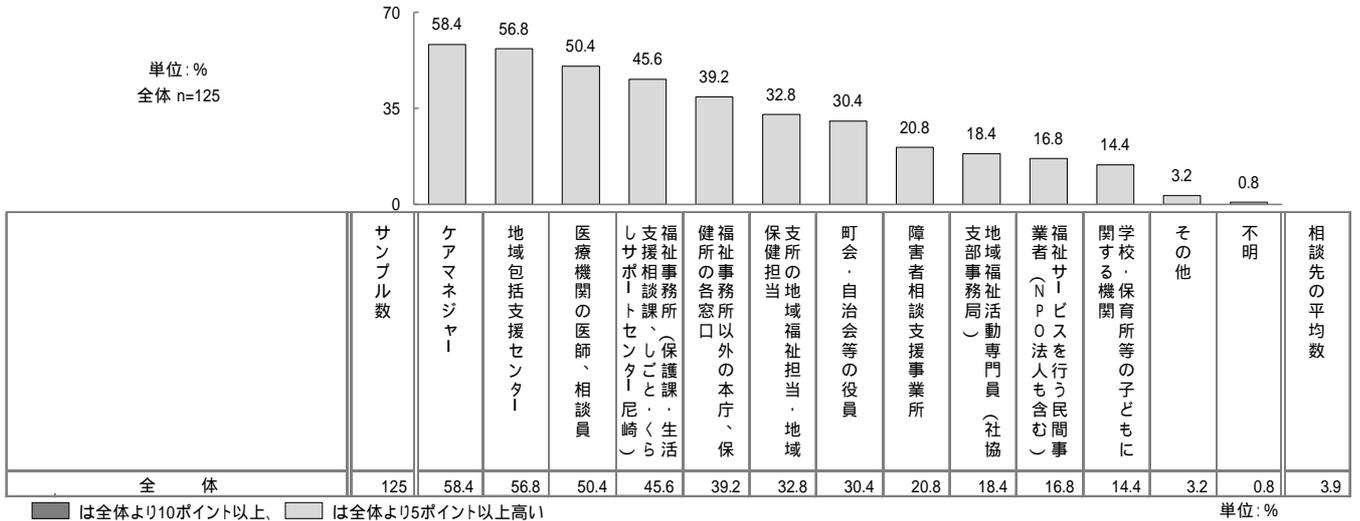


(1) 普段の活動の中での相談先・協力先

問9. 普段の活動の中で、相談したり協力を求めるところはどこですか。(MA)

普段の活動の中での相談先・協力先は、「ケアマネジャー」「地域包括支援センター」が上位。訪問型は特にこの2か所に集中傾向である。

- 普段の活動の中での相談先・協力先は、「ケアマネジャー」(58.4%)、「地域包括支援センター」(56.8%)、「医療機関の医師、相談員」(50.4%)の順に上位。

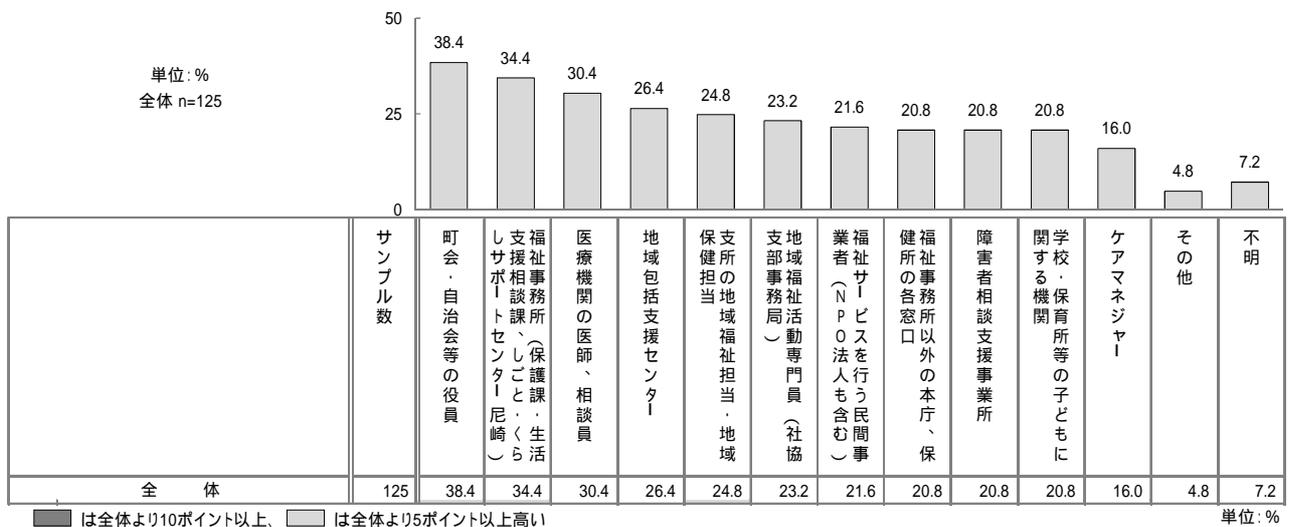


(2) 今後必要となる相談先・連携先

問10. これからの活動の中で、新たに相談や連携が必要と考えているところはどこですか。(MA)

今後必要となる相談先・連携先は、「町会・自治会等の役員」「福祉事務所」「医療機関の医師、相談員」が上位。

- 今後必要となる相談先・連携先は、「町会・自治会等の役員」(38.4%)、「福祉事務所(保護課・生活支援相談課、しごと・くらしサポートセンター尼崎)」(34.4%)、「医療機関の医師、相談員」(30.4%)の順に上位。



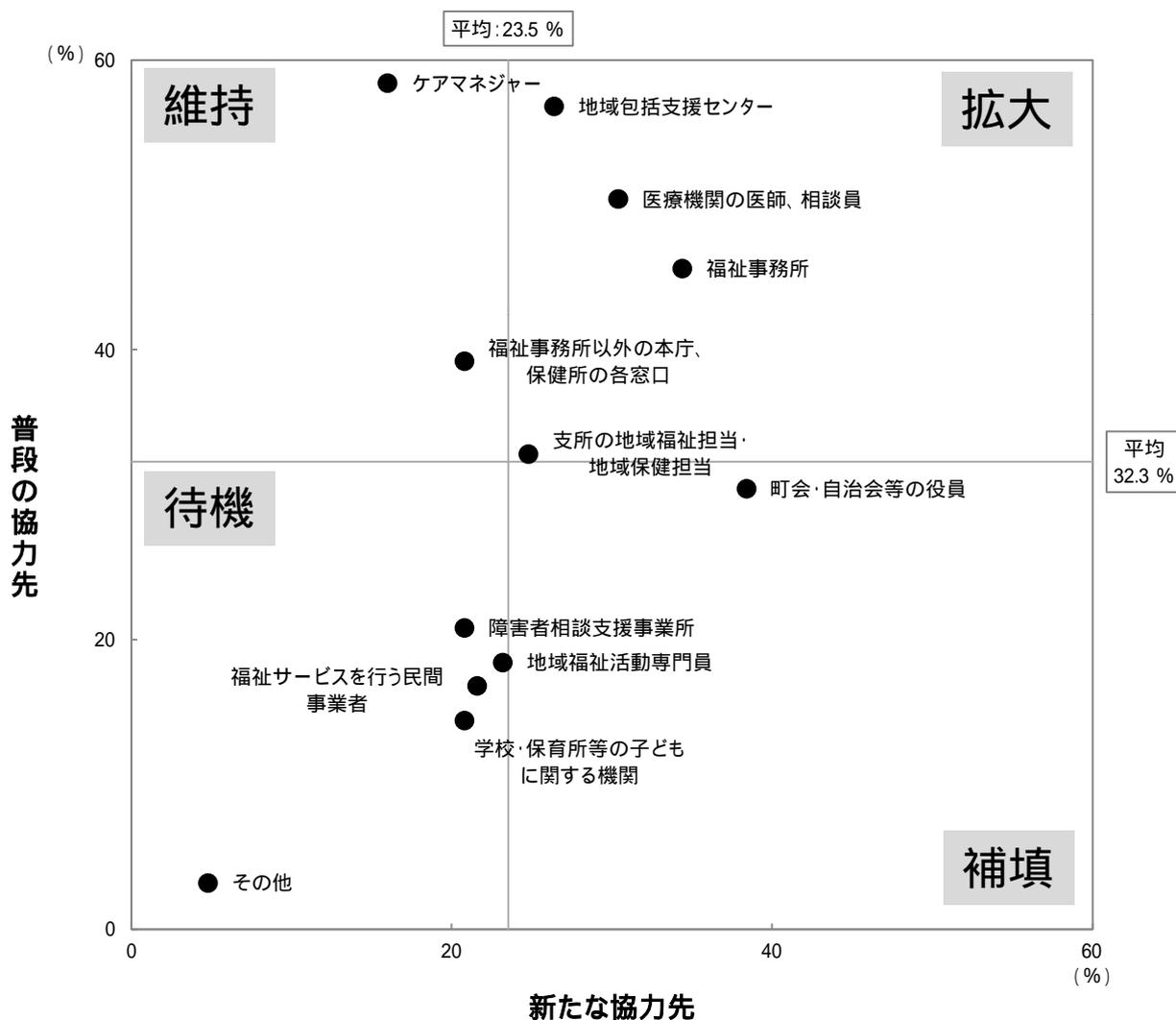
(3) 現在の相談・協力先と今後必要となる相談・連携先の4象限分析

問9. 普段の活動の中で、相談したり協力を求めるところはどこですか。(MA)

問10. これからの活動の中で、新たに相談や連携が必要と考えているところはどこですか。(MA)

普段の協力先も新たな連携先も高い「**拡大**」領域には、「地域包括支援センター」「医療機関の医師、相談員」「福祉事務所」「支所の地域福祉担当・地域保健担当」がみられる。

普段の協力先は低いながら、新たな連携先が高い「**補填**」領域には、「町会・自治会等の役員」がみられる。

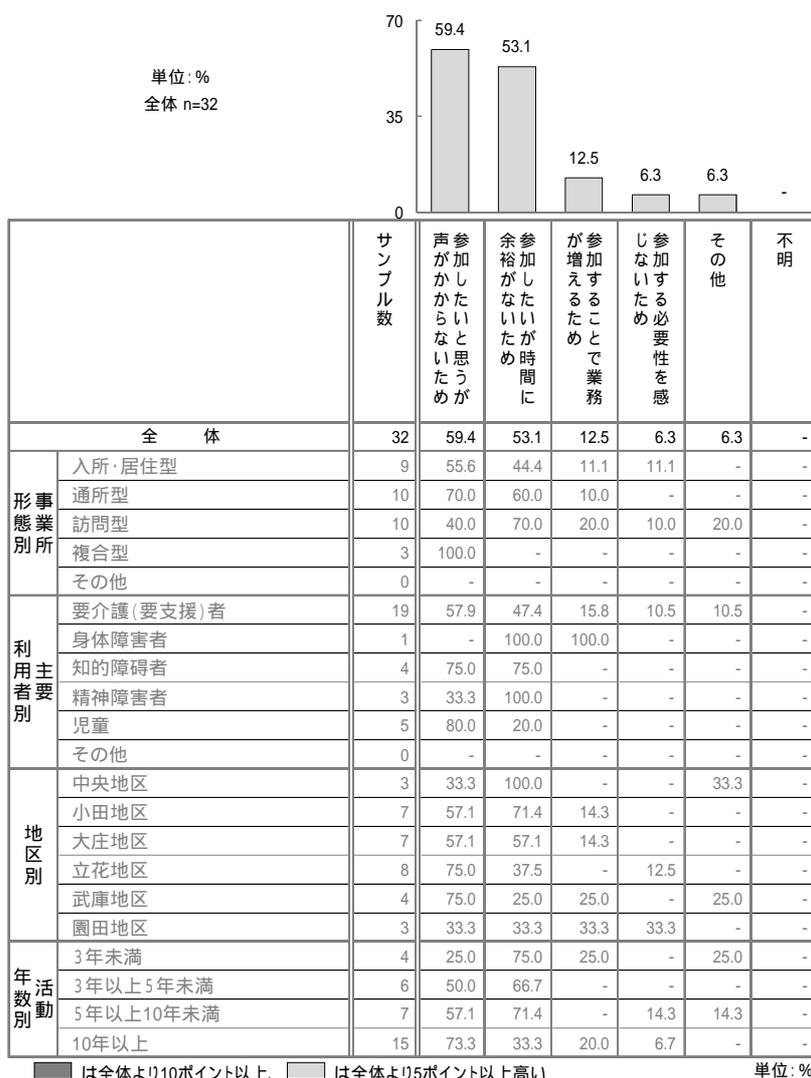


(5) 会議に参加しない理由

問12. 関係機関の開催する会議に参加していない理由を教えてください。(MA) 【問11で「5.参加したことはない」とお答えの方へ】

会議に参加しない理由は、「声がかからない」「時間に余裕がない」が5割台で上位。

- 会議に参加しない理由は、「参加したいと思うが声がかからないため」(59.4%)、「参加したいが時間に余裕がないため」(53.1%)の2点が5割台で上位。
- 層別はサンプル数が少ないため、参考値とする。



5 . 市民・民生委員・事業者共通質問の回答比較

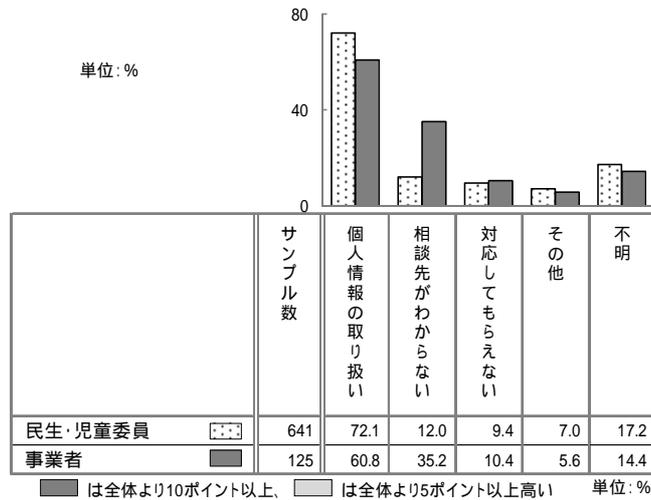
(5) 地域住民、他機関との相談・協働での困り事

【民生】問13. 地域住民や他機関と相談、協働する際に、どういったことにお困りですか。(MA)

【事業者】問13. 地域住民や他機関と相談、協働する際に、どういったことにお困りですか。(MA)

「個人情報の取り扱い」は民生・児童委員、事業者とも高いが、「相談先がわからない」は事業者でのみ高い。

- 地域住民、他機関との相談・協働での困り事を、民生・児童委員と事業者で比較すると、「個人情報の取り扱い」はどちらも高いが、「相談先がわからない」は、事業者が35.2%なのに対して、民生・児童委員では12.0%と低い。



(6) 地域の避難場所の認知

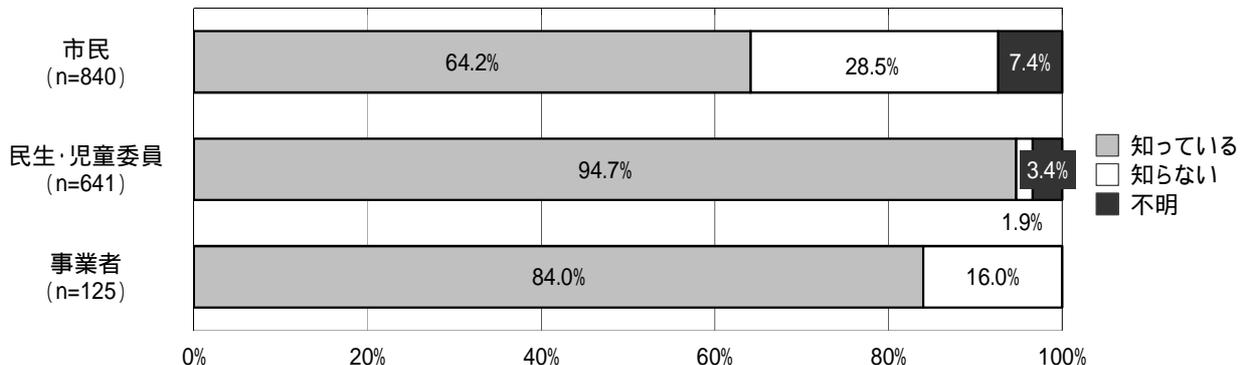
【市民】問22. 地域の避難場所(避難所含む)がどこにあるのかご存じですか。(SA)

【民生】問18. 地域の避難場所(避難所含む)がどこにあるのかご存じですか。(SA)

【事業者】問14. 貴事業所の所在する地域の避難場所(避難所含む)がどこにあるのかご存じですか。(SA)

民生・児童委員では約9割半、事業者では約8割半の認知率であるが、市民では3分の2に満たない。

- 地域の避難場所の認知を比較すると、「知っている」は民生・児童委員で94.7%と最も高く、事業者で84.0%である。市民では64.2%と、3分の2に満たない認知率となっている。

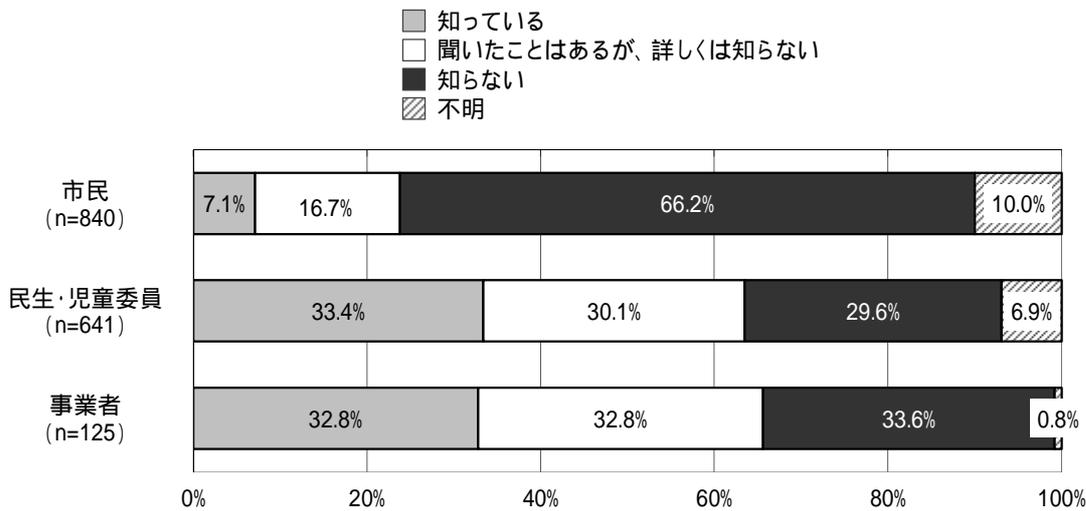


(7)福祉避難所(2次的避難所)の認知

【市民】問23.福祉避難所(2次的避難所)をご存じですか。(SA)
 【民生】問19.福祉避難所(2次的避難所)をご存じですか。(SA)
 【事業者】問15.福祉避難所(2次的避難所)をご存じですか。(SA)

民生・児童委員、事業者に比べて、市民の認知率は大幅に低い。

- 民生・児童委員、事業者では3割強が「知っている」としているが、市民では「知っている」は7.1%と低い。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」を加えても、市民の認知率は民生・児童委員、事業者に比べて大幅に低い。

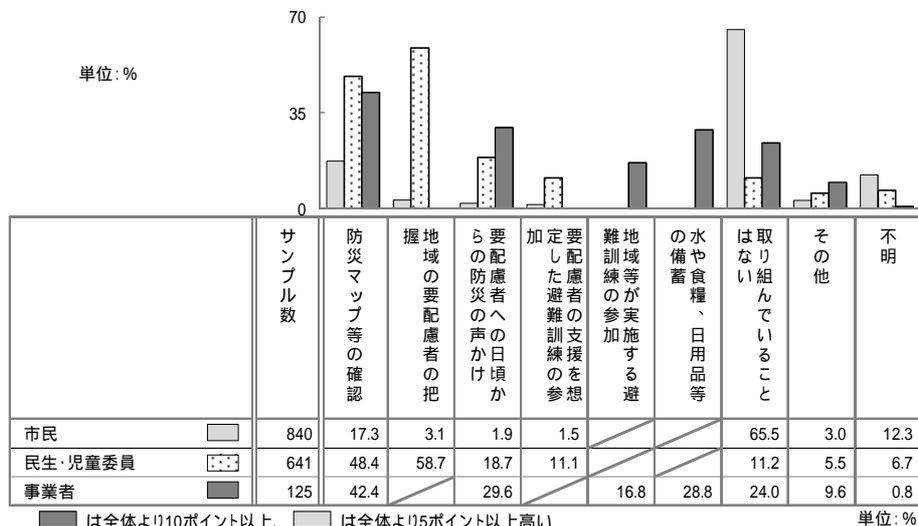


(8)要配慮者の避難支援のために取り組んでいること

【市民】問26.地域にお住まいの要配慮者の避難支援のために、あなたが日頃から取り組んでいることはありますか。(MA)
 【民生】問20.地域にお住まいの要配慮者の避難支援のために、あなたが、日頃から取り組んでいることはありますか。(MA)
 【事業者】問17.貴事業者が地域の要配慮者の避難支援のために、日頃から取り組んでいることはありますか。(MA)

市民は「取り組んでいることはない」が、民生・児童委員、事業者に比べると非常に高い。

- 要配慮者の避難支援のために取り組んでいることを比較すると、市民は「取り組んでいることはない」が圧倒的に高い。市民が最も取り組んでいる「防災マップの確認」でも、民生・児童委員、事業者に比べると、25.1~31.1ポイント低くなっている。



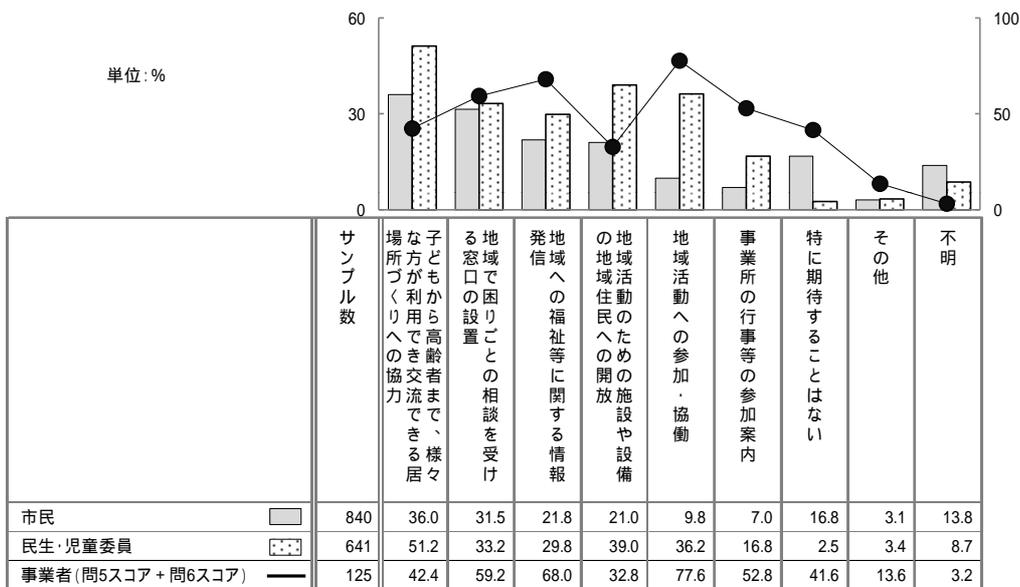
(9)福祉事業に期待すること×地域での現在の取り組み×地域での今後の取り組み

- 【市民】問21. あなたが、地域の福祉事業者に期待することはなんですか。(MA)
- 【民生】問24. あなたが、地域の福祉事業者に期待することはなんですか。(MA)
- 【事業者】問5. 貴事業者は地域において、現在、どのような取組みを実施していますか。(MA)
- 問6. 今後、貴事業所が地域において新たに取組むとすれば、どのような活動ですか。(MA)

「居場所づくりへの協力」「施設や設備の地域住民への開放」「地域活動への参加・協働」について、民生・児童委員からの期待が特に高い。

ただし、「居場所づくりへの協力」は、事業者の実施(意向)率はあまり高くない。

- 地域の事業者に期待することを市民と民生・児童委員で比べると、いずれも民生・児童委員の方が高いが、特に「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」「地域活動のための施設や設備の地域住民への開放」「地域活動への参加・協働」が高い。
- この結果を事業者と比較すると、「地域活動への参加・協働」は事業者も取り組んでいるか取組意向があるが、「子どもから高齢者まで、様々な方が利用でき交流できる居場所づくりへの協力」は、期待に満たない実施率(実施意向率)である。



■ は全体より10ポイント以上、□ は全体より5ポイント以上高い

棒グラフは左軸、折れ線グラフは右軸

単位:%